



梅光

佐藤泰正先生 追悼特集号

題字は初代院長 広津藤吉先生

第48号

2016年(平成28年)6月30日発行
 梅光学院同窓会
 〒750-8511 下関市向洋町1-1-1
 TEL/FAX 083-227-1111
 編集発行人 浜谷 静枝
 同窓会 E-mail dousokai@baiko.ac.jp
 http://www.baiko.ac.jp
 印刷 (株) 三和印刷社
 〒752-0927 下関市長府扇町9-1



佐藤泰正先生追悼記念礼拝

二〇一六年(平成28年)度役員
 顧問 浜谷 静枝 (高10)
 会長 片山 宣子 (高19、大目1)
 副会長 磯谷 由美 (高25、大英7)
 書記 岩男 晶子 (高32)
 委員 香月 順子 (大英7)
 安成百合子 (高20)
 永見 昌代 (大目20)
 晶中 節子 (高18、短目2)

みことば(28)	李 光赫…… 2	平良美代
新会長挨拶	片山 宣子…… 3	向山義彦・渡辺智子先生ご逝去 …… 16
前会長挨拶	浜谷 静枝…… 3	第15回メモリアルデー 力丸徳子…… 18
学院長挨拶	中野 新治…… 5	恩師はいま …… 20
学長挨拶	樋口 紀子…… 5	卒業生はいま …… 21
中・高校長挨拶	近藤 泰雄…… 6	支部だより …… 25
特集 佐藤泰正先生追悼文…… 7		同期会だより …… 27
	中野新治・奥野政元・宮田 尚	2016年度総会報告 …… 28
	湯木洋一・宮野光男・渡辺憲司	学院だより …… 32
	湯浅直美・金 貞淑・一色誠子	校旗贈呈 …… 36
	柴田良一・安富恵子・木原豊美	2017年度総会ご案内 …… 36



〃みことば〃

〈28〉

李 光 赫

(梅光学院大学 宗教主任)

「キリストを見上げること」
 故、佐藤泰正先生追悼文



発明家として有名なトーマス・エジソンの実話です。1914年12月アメリカのニュージャージー州ウエストオレンジにあるエジソンの研究室に大きな火災が発生しました。約200万ドル以上にもなる研究道具が全焼し、一生をささげて記録した実験日誌が焼けてしまったのです。翌朝、エジソンはすべてが灰になった研究室を歩きながらこのように言いました。「災難が必ずしも悪いことではないな。私のすべての失敗を一度にみな持ち去ってしまったのだから。この歳にまた始められるようにして下さるとは：神様にどんなに感謝しているか分からない。」そして、彼はまた研究を始めました。当時、エジソンの歳は67歳でした。

主に望みを持つている人々はいつでもまた始められます。信仰に「すでに遅いとき」などありません。人生でいつ逆境の嵐がやって来るか分かりません。しかし、そのような状況でも注意深く見てみると、真実なる神の存在が見えます。どんなに苦しい状況でも、必ず打ち勝つ力が与えられます。

人生の中で、心配事があるたびに心の重荷を神様に任せるのは、思うほど簡単ではありません。心配は神様より自分の恐れ of 感情を信じる時に生じる

のです。それでも聖書はこのように時に私たちにできることは感謝すること、それも「先取りの感謝」をすることであると教えます。

「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」ヨハネによる福音書16章33節の御言葉です。

故佐藤泰正先生のご著書を通して、まるで逆境のど真ん中に立つておられるキリストの姿に出会うことができます。これは信仰者として常にへりくだった佐藤泰正という真実な兄弟が見出したキリストの姿であります。

新約聖書マタイによる福音書23章11節・12節に「あなたをたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」とありますが、佐藤先生の人生そのものが謙遜の文学であり、仕える物として歩んできた98年の人生であったと思います。

まことの謙遜とは、自分を低めることではなく主に望みを持つてキリストを見上げることではないかと、故佐藤先生の歩みから学ぶことができます。





新会長挨拶

片山宣子



少子化の波に母校梅光学院が翻弄されています。このような時期に、果たして私が会長という重責を負えるのであろうか、という思いは今もあります。しかしながら中学入学以来教師生活も含め半世紀を学院の中で過ごした者として、微力ながらも誠実に力を尽くすべきなのだろうという気持ちで任に当たることにしました。同窓会は、同窓生一人ひとりのご支援をいただいで初めて動き出すことが可能になります。積極的なご支援、どうぞ宜しくお願いいたします。

活動方針は役員会で賛同を得なければなりません、同窓生同志の交流を活性化し、会を組織として整えていくことに努力することです。会則の見直し、組織改革(本

部、支部の見直し)、内規作成等をしたと思っています。

また、昨年度末、学院理事長から「校友会組織の立ち上げ」のお話を受けています。(BAIKO VISION FOR 2020 28ページ参照「学院発行」)校友会と同窓会との関係がどうなるのかということも大きな課題です。話し合いを重ねる中で皆様にご判断を仰がねばならないことも出てくるでしょう。

同窓会からの情報を迅速に伝えるためのホームページ開設も必要だと考えています。(今は学院のホームページに間借りしている状態です)様々考えますと、総会の時にお話いたしました通り補正予算が必要になります。現予算より250万程度膨らむことをお許し願いたいと考えています。予算執行の状況はホームページで公開し来年度の総会で詳細を報告いたします。

グローバル化が加速され、経済指標が未来を語る唯一のものであるように喧伝される現在社会の中で、梅光が40年余受け継いで来た「光の子として歩む」精神は重要性を増してくると確信します。私たちが母校を懐かしみ思い起こす原点は、その教育の価値を人生の年月を重ねる中で実感するからだと思えます。同窓生はその意味で世代を超えていつも心の友なのです。一年間宜しくお願いいたします。

最後にになりましたが、困難の中で会長職を全うされた浜谷先生や

2016年度同窓会総会

会長挨拶・学院の現状

浜谷 静 枝



皆様こんにちは。本日は学院・同窓会を心配して、280名の方々のご出席を得て総会が開催されました。そのお気持ちに感謝いたします。この度は本間理事長が初めてご出席下さり、中野学院長も予定を変更してご出席下さいました。有難うございます。後ほど挨拶をいただきます。

早速ですが、2015年度は学院・同窓生にとって悲しい事が二つありました。一つは梅光のシンボルの存在であった佐藤泰正先生が、2015年11月30日98歳で亡くなられた事

役員会で奉仕された方々に感謝いたします。ありがとうございます。

です。昨年の総会の講演のお願いに伺った時、「自分に来ることにはします」とおっしゃられて、当日「梅光学院下関開学101年を迎えてーこの時代を生きる力は何かー」と題して、60分の予定を80分熱く語って下さいました。中高の新しい校舎の紹介を兼ねて「山田宏記念ホール」で開催しました。190名の出席者が「先生に大きな力、励ましをいただいた」と感謝してました。講演終了後お送りする予定でしたが、「コール梅光の歌を聴いてから帰ります」とおっしゃられて、ホールの中央で車イスのま、一曲終わる度に目を細めて、最後まで拍手しておられた姿が、190名の方々には先生の最後のお姿となりました。

70年もの間、「私学」は「志学」でなければならぬと、キリスト教に基づく建学の精神を教育理念に梅光のため、学生生徒のため、同窓会のために「教育者として」「文学者として」「キリスト者」として生涯を梅光に捧げつくされた、高潔な生き様に接することが出来た事に、心からお礼と感謝を申し上げます。梅光の皆、大

きな「星」が落ちた思いです。

6月発行の梅光誌48号は「佐藤泰正先生」追悼特集号です。ご寄稿下さった方々の先生に対する深い想いをしっかりと受けとめ、志を学びたいと思います。また第16回梅光メモリアルデー(梅光48号案内)は「佐藤泰正先生の思い出」と題して、岡田喜久男先生・片山宣子先生に語っていただきます。ビデオも観ます。是非ご出席下さい。

二つめの悲しく残念な出来事は「今の梅光の現状」です。私達卒業生は人として如何に生きるか、人生をどのように過すか、立ち止まり、立ち返える指針を与えられて卒業しました。それが梅光の宗教教育であり人間教育です。その教育は年と共によみがえり今も生きる支えとなっています。

人口減少、少子高齢化の問題は年々深刻となり、地方の小規模校の私学、梅光には存続を揺がされる大きな問題です。ミッションス쿨として、梅光100年に亘る教育理念を信念として、本気で真剣に梅光の未来の学校運営経営を志して下さる教育者、責任者が居ない事が悲しいことだと思います。

定員割れは10年以上前から、特に中高では120人の在籍が40人を割り、1/3以下になっている現状です。改革縮小は当然のことです。



あり、遅すぎたきらいがありま
す。かつて生徒学生を育てること
を最優先に信頼関係の中で、学校
運営経営をしておられた歴代の学
院長・学長・校長・理事長は、決
して今回のような方法は取られな
かったはずです。

赤字解消のため40代50代の専任
教諭11名に対し、厚労省が注視す
る民間会社のリストラ専門の社員
を講師として派遣させ、退職勧奨
を行い、否応なしに辞表を提出さ
せるような非情な方法をとしまし
た。11名の教諭は、教科指導・生
徒指導・学級経営に於て、生徒を
愛し生徒一人一人に向きあう資質
の高い先生方でした。

この改革の結果、中高で15名、
この中にクリスチャンの先生が7
名います。大学で11名の先生が新
年度、新学期開始直前に学校を
去って行かれました。

今学校では、中高について中学
校一学年50名、高校一学年100名、
計450名規模の学校運営経営を考え
ています。大学は他県からの応募
で定員をカバーできますが、中高
は同窓生・保護者・下関市民皆様
の信頼・支援がなければ存続出来
ません。下関市は人口減少、少子
化が加速度的に進み、人口27万人、
平均年収200万円と云われる社会生
活環境の中で、私学に通わせるに
は、梅光の教育に対する強い信頼、

期待、魅力がなければ困難です。
下関に在る伝統あるミッション
スクール梅光。良質の教育を行っ
てきた100年の歴史をもつ梅光学院
から中高が無くなつてはならな
いのです。現執行部の改革に対し
意見批判は出来ませんが、それだけ

ではいけないのです。同窓会は梅
光を支援する大切な目的がありま
す。会則に「同窓会は梅光学院を
幹として、それに連なる同窓生相
互の交誼を篤くし、母校の振興を
はかることを目的とする。」と有
ります。どのような状況の梅光で
あっても、同窓会はそこに学ぶ生
徒学生が質の高い教育を受け、開
学当時の教育理念を持つ志学であ
るよう支援しなければなりません。
今迄以上に梅光を心に留め支
援して下さいますようお願いいた
します。

最後にお詫びを申し上げます。
今年度の総会については昨年発行
の梅光誌47号でご案内しました
が、一年以上も前に計画されたも
のです。今回の出来事のため、プ
ログラムの変更を余儀なくさせら
れました。一部総会、一部懇親会。
演奏者の方々には演奏時間の短縮
だけでなく、懇親会の中で演奏を
お願いするという大変無礼なこと
をすることになりました。皆様、
是非演奏中はマナーを守っていた
だきますようお願いいたします。

同窓会行事にいつも花を添えて
下さっているコール梅光の合唱
については、歌う時間を総会の
協議時間に提供します」と辞退し
て下さいました。コール梅光には
テーマソングとも云える「光の子
らしく」という歌があります。作
詞コールメンバーズ。作曲M科卒
業生穴見めぐみさん。この「光の
子らしく」は聴く者の心を豊かに
満ちたりた思いにしてくれます。
良き時代に良き教育を受けた卒業
生の回顧の歌ではありません。今
学んでいる生徒学生、これから学
ぶ生徒学生が、梅光で学んだこと
を誇りに思える梅光であるよう母
校への応援歌でもあります。

梅光の教育が、今後も地元の皆
様に信頼支援される学校でありま
すよう「否」を云いながら、母校
の発展を祈り支援しましょう。母
校に対する思いとご協力をお願い
して挨拶いたします。

「総会」は今だかつてない緊張
感の中で、森田朋子役員の名司会
進行で審議・質疑応答が行われま
した。審議事項(一)同窓会スタッ
フに対する交通費・事務手当の予
算化。(今迄は無償)(二)高等学
校音楽科へグラントピアノ寄贈の
件。(三)来年度総会議事予告。(一)
(二)共に満場一致で承認されま
した。

本間理事長・中野学院長に対す
る質疑応答は、短時間のため十分
納得できる返答は得られなかった
ものの同窓生・保護者から、梅光
の教育・運営に対する質問・疑問・
意見を率直に届けることが出来た
良い機会となりました。真剣に受
けとめていただき早期の改善を祈
るのみです。

役員改選は、片山宣子先生が推
せんされ選任されました。若い
力で、広い視野に立った新しい視
点で同窓会がスタートするでしょ
う。お陰をもちまして皆様のご協
力をいただきながら、5年間無事
に務めることが出来ましたこと感
謝申し上げます。有難うございま
した。皆様の平安とご活躍をお祈
り申し上げますと共に今後ともご
支援下さいますようお願い申し上
げます。

総会の時間が足りず質問で
きなかつたものを掲載します。
回答はHPでお知らせします。

○韓国からの宗教主任による
宗教教育が、幼・中高・大
と全てにわたりますが、そ
れによって変化することを
具体的に教えて下さい。

○梅光が永く建学の精神とし
たキリスト教に基づく教育
をどのように理解して継続
されるお考えですか。

○この度の中高の改革に生徒
の立場を考えましたか。新
年度の現状をきかせて下さ
い。

○幼稚園・中高・大学のそれ
ぞれの教育目標とそれを通
じて梅光が掲げる人格教育
と人間像を示して下さい。

○中高・大学共に奨学金(償
還不要のもの)の授業料総
額に対するパーセンテージ
を教えてください。

○中高の存続を信じてよろし
いでしょうか。卒業生とし
て支えていきたいと思いま
す。

○この度の中高の改革に生徒
の立場を考えましたか。新
年度の現状をきかせて下さ
い。



変えるべきもの、変えてはならぬもの

学院長 中野新治



す。

343、82、50、34、この数字は、大学・高校・中学・幼稚園の2016年度の入学人数です。合計は509名で、2012年度の330名と比べれば、学院が明らかに再生期に入ったことがわかります。これは、大学における樋口紀子学長、中高における近藤泰雄校長、幼稚園における李光赫園長の強い使命感に基づくお働きの成果ですが、各部署で文字通り心血を注いで学院のためにご尽力いただいている教員、職員の間にもあつてのものであることは言うまでもありません。この場を借り、篤く御礼を申し上げます。

本間理事長は、2013年、財政破綻寸前の状況にあった本学院に赴任されました。旧文部省の総務審議官(局長級)、京都大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学副学長という要職を歴任後、東京で、ライフワークである大学改革のために働こうとされていた理事長は、地方の小規模私学の再建のためにこれまでの経験を活かすことを了承され、重責を担われました。火中の栗ならぬ、爆弾をひろうような決断でした。さまざまな施策をリードし、最新の成果として、学院はじめての中期計画書である「BAIKO VISION for 2020」のとりまとめに力を尽くされました。これは、スクールモットーである「光の子として歩みなさい」が、どのような教育内容と学院運営によって、学生、生徒、園児の上に具現化されていくのか、がまとめられたものです。2020年までの5年間、このプランが着実に実行されていけば、ますます厳しくなる少子化の波を必ずや乗り越えられると信じています。この1年間

は、劇的な増収の望めぬ中、ふくれ上がった人件費の削減による財政健全化のため、給与のカット、中高の教員への希望退職の実施など、痛みを伴う苦渋の決断も現執行部はせざるを得ませんでした。その結果、その評価に対するさまざまな風評が飛びかい、一部メディアによる事実無根の報道もなされています。しかし、中高体育館や大学東館新築のためのたくわえさえ無い財政状況をどうぞご理解いただき、是非「事実に基づいた評価」をしていただくことを切望するものです。

学院におけるミッションスクールとしての人間教育は、現在ますます強固なものになっています。大学での日々の礼拝出席者は100名を越えており、今回の熊本地震への献金は大学で約32万円、中高で約30万円(校外募金を含む)でした。変えるべきものと変えてはならぬものをしっかりと区別し、学院はこれからもミッションスクールの灯をこの地でかけ続けて参ります。

大学は今年、1967年の開学以来最も多い新入生を迎えました。これもひとえに幅広い学びや、体験を重視する教育を行い、それが就職につながって来ているからだと思えます。2014年は文学部と国際言語文化学部を一つにし、文学部人文学科となりました。この中に日本語・文芸創作、地域文化、英語コミュニケーション、国際ビジネスコミュニケーション、東アジア言語文化という5つの専攻を立て、どの専攻の学びでも比較的自由に取ることができるようになりました。海外の姉妹校やインターンシップ先も英語圏だけではなく、アジアにも広がりましたので、海外に行く学生の割合も年を追うごとに増えています。フィールド



2017年に「開学50年」を迎えます

梅光学院大学学長 樋口紀子

ワークやボランティア、ワークショップ形式(演劇、アニメ、スピーチ法等)の授業も以前に比べて数多くなっていますので、それぞれの体験を通して学生たちが成長している様子を目の当たりにする今日この頃です。また、3年生から始まるキャリアの授業と共に、航空業界を目指す人のために「ANAエアラインスクール」、教員を志望している人のために「教員の星」を外部の専門家の協力の得ながら実施していますので、就職支援体制も強化されています。

このように、大学は少子化の中にあつても、選んでもらうことができる大学を目指して大学づくりをしています。その大学も2017年に開学50年を迎えます。現在、開学50年の記念事業として「主体的な学びのための場所づくり」を計画し、広く募金活動をしていますので、皆様にもご協力頂ければ幸いです。



梅光学院中学校・高等学校

校長 近藤 泰雄



① 校長として赴任して1年

昨年4月より伝統ある梅光学院中学校・高等学校の校長として赴任して、1年になりました。激動の1年間でした。様々な問題に遭遇し、身体とこころが折れそうない日々が続きました。それをなんとか支えてくれたのが、生徒の皆さん、先生方、保護者の皆さん、同窓会の方々でした。ほんとうに感謝いたします。

② 朝の挨拶から

梅光学院に赴任してすぐに、あの先生が校長室にいられました。「校長先生お願いがあります。この生徒たちはとても寂しい思い

をしています。是非毎朝校長先生が挨拶をして出迎えてください。」と頼まれました。自分は前任校でも校門に立って挨拶をした経験がなく、生徒たちとの交わりは別な方法で行っていました。(学校行事に参加したり、お手紙を書いたり、また礼拝で生徒たちに直接お話ししたり・・・)その次の日から私は毎朝、8時から玄関前に立って生徒たちに声をかけ続けました。私にとってはとても新鮮な気持ちで、生徒たちもこやかに挨拶してくれるのがとても嬉しかったのです。梅光学院の生徒たちはほんとうに良い生徒たちです。この学校がキリスト教学校として、生徒たちをひとりひとり大切にしてきた伝統を感じたものでした。

③ 2015年度の中学・高校の課題

私は教師のスタートの時、その時の女性の校長先生が「教育とは記録よ!」と言われたことが教師生活の原点でした。この学校に

来ても様々な取り組みについて記録をしてきました。その取り組みの数は50を超えるものになりました。(関西学院との協定、明治学院大学との協定・エリザベト音楽大学との協定、オーストラリア・サザンクロス・カトリック・スクールの姉妹校提携など)もちろん梅光学院は100年以上の伝統を持つていて、大切にしなければならぬものがたくさんあります。しかし、外から来たものによって気がつくこともたくさんあります。一つの例が「校旗」がなかったということです。入学式、卒業式にはこの学校でも校旗が飾られているのです。校旗はその学校のシンボルであり、アイデンティティーです。私はとても違和感を感じてその話をしましたところ、戦前には校旗が存在していて、空襲によってなくなってしまうから、校旗がないままに来たそうです。今回同窓会の皆様のご尽力で素晴らしい校旗が制作され、学院に寄贈されたことは梅光学院の新しい歴史を刻んだこととなりました。この校旗の例のように、中高のしななければならないことはたくさんあるように思います。

④ 2016年度の取り組み

大洋を航海する船は、長い旅路

の中で船底に貝殻がたくさん付着します。貝殻が付着すると船はスピードが遅くなってしまいます。梅光学院も長い船旅の中で、様々な改革をしなければならぬのに、そのスピードが遅れてきたのかもしれない。私は4月2日の最初の職員会議において、全職員に「2016年度の学校経営計画」を校長として示しました。全教職員が「一人一人の生徒を大切に」という梅光学院のこれまでの教育をさらに進めるために、ベクトルを合わせることで大切であることを訴えました。その「学校経営計画」は、施設の問題などハード面や、生徒の教育のソフトな面と様々です。施設の問題も山積しています。(体育館の改修、音楽科の生徒が利用するピアノの問題、本館の暗い部分をLEDに、中庭に生徒たちが憩うテーブルの設置、礼拝堂のペンキ塗り、アドベントの時に使用する燭台、お客様用のスリッパなど)細かいところから、大きいところまでたくさんあります。学院は現在財政困難ですが、みんなで祈り、知恵を働かせればきっと何とかかなると信じています。PTAの方々、同窓生の方々が中高を今後ともサポートして下さることを感謝いたします。



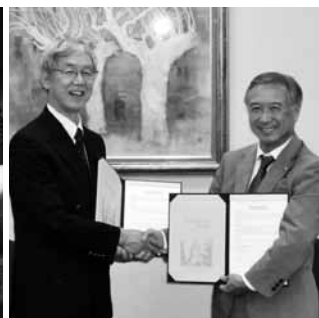
エリザベト音楽大学



明治学院大学



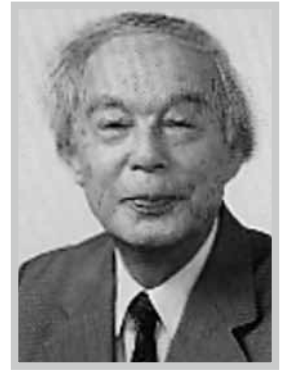
サザンクロス・カトリック・カレッジ



関西学院大学



特集



故佐藤泰正 元大学学長
文学博士

略歴

1917 (大正6年) 11月26日 山口県厚狭郡山陽町にて出生
 1934 (昭和9年) 16歳 豊浦中学卒業(4年修了)
 1940 (昭和15年) 22歳 早稲田大学文学部国文科卒業
 1940 (昭和15年) 22歳 山梨英和女学院教諭
 1945 (昭和20年) 27歳 大阪市立西華高等女学校教諭
 1945 (昭和20年) 27歳 梅光女学院着任 受洗(下関教会小幡慶助牧師より)
 1950 (昭和25年) 32歳 梅光女学院中学部長
 1956 (昭和31年) 38歳 早稲田大学大学院国文研究室委託生
 1964 (昭和39年) 46歳 短大副学長
 1967 (昭和42年) 49歳 大学副学長

1968 (昭和43年) 50歳 山口県芸術文化振興奨励賞受賞
 1971 (昭和46年) 53歳 大学・短大学長
 1971 (昭和46年) 53歳 大学公開講座開始
 1972 (昭和47年) 54歳 「近代文学・その側面―文学とキリスト教思想との受容相関をめぐる考察」によって早稲田大学より文学博士の学位を授与
 1995 (平成6年) 77歳 短大学長 辞任
 1997 (平成8年) 79歳 第7回宮沢賢治賞受賞
 2000 (平成12年) 82歳 大学学長 辞任 生涯学習センター所長 就任
 2015 (平成27年) 98歳 11月30日 虚血性心疾患により逝去

学会及び社会における活動
 ・日本キリスト教文学会九州支部長
 ・北村透谷研究会理事
 ・中原中也記念館運営協議会会長
 ・中原中也の会理事
 ・中原中也賞 選考委員
 ・山口市文化振興財団 理事

主な著書

- 『日本近代詩とキリスト教』新 教出版社 1968
- 『文学その内なる神 日本近代文学一面』桜楓社 1974
- 『近代文学遠望』国文社 1978
- 『夏目漱石論』筑摩書房 1986
- 『佐藤泰正著作集』全12巻別巻 1 翰林書房 1994―2003
- 『中原中也という場所』思潮社 2008
- 『文学講義録 これが漱石だ。』櫻の森通信社 2010
- 『文学の力とは何か』翰林書房 2015

故 佐藤泰正 元大学学長 追悼礼拝・お別れの会 式次第

とき/2016年(平成28年)1月23日(土) 13:30~14:40
 ところ/梅光学院大学 スタージェスホール

司式 大学学長 樋口 紀子
 奏楽 大学職員 水野 みのり

第1部 追悼礼拝
 前奏 大学ハンドベル部
 招詞
 讃美歌 187番「主よ、いのちの」一同
 聖書 ヨハネによる福音書 第1章1節~5節
 讃美歌 320番「主よみもとに」梅光チャペルクワイア
 奨励 学校法人梅光学院 学院長 中野 新治

第2部 お別れの会
 お別れの言葉
 ・学校法人活水学院 理事長・学院長 奥野 政元
 ・元梅光学院同窓会会長 梶間眞壽美
 ・徳山工業高等専門学校 教授 一色 誠子
 ・梅光学院大学大学院 博士課程2年生 田中 大樹
 遺族代表挨拶 佐藤 京 (当日は欠席の為院長代行)



追悼礼拝・お別れの会 奨励

梅光学院学院長 中野新治



2015年11月30日、佐藤泰正先生は地上での生

を終えられ、天に召されました。4日前の26日、98歳の誕生日を迎えられたばかりでした。私どもも、また、佐藤先生ご自身も100歳までは仕事を続けられると思っていたので、突然のことに驚き言葉を失いました。病名は虚血性心疾患というのですが、要するに心臓がもう体を支えられなくなったということでした。数年前に発症した脳梗塞の影響で足が不自由になられたことにも関係があるよう思われます。いずれにせよ中学・高校・大学と70年間を越えて現役でありつづけられ、文字通り梅光のシンボルであられた先生ともうお話しすることはできなくなりました。

あの芸の領域にまで達したご講演を聴くことも、又、「私は名前前の通り、神様から佐藤、やすませんぞと言われているので、休まずに働き続けます」といったダジャレに親しむこともできません。しかし、まさしく、文学の道一

筋を歩まれ、文学と梅光に殉じられた幸せなご生涯であったことは私たちにとつて深い慰めです。一方で、見方によれば、佐藤先生と共にあった文学の良き時代もここに終わりを迎えたと言えるのかもれません。しかし勿論、文学が衰退するか否かは大きな問題ではありません。もともと、文学とは社会の中で周縁に位置するものであり、むしろ、そのような中にしか後世に残る本物の作品が生まれるはずはないからです。

今、私たちに必要なのは、佐藤先生がその学究生活の中で、どのような態度で研究対象に臨まれ、それをどのように論じられたかをしっかりと理解することではないでしょうか。それは当然、先生のお人柄や、生きる姿勢に直結するものであるはずで

私には、おそばに仕えた者の一人として、皆様と共に、近代文学研究に新しい領域を切り拓かれ、それをおしみなく学生たちに、又、地域の方々に分け与えて下さった先生の学徒としての歩みを振り返ってみたいと思います。佐藤先生の著作で、最初に世に

出たものは『蕪村と近代詩』(1962年)であり、世に好評を持って迎えられました。しかし、先生の御名前を一躍世に知らしめたのは、次作『近代日本文学とキリスト教・試論』(1963年)でした。佐藤先生44歳の著作です。そこには吉本隆明、芥川龍之介、堀辰雄、遠藤周作、中原中也、宮沢賢治など、そのご生涯にわたつて関心を持たれた続けた文学者たちが並んでいます。が、巻頭に置かれた「宗教と文学におけるひとつの問題」には、先生の学究生活の基盤をなすものが、はっきりと表現されており、この論文こそ佐藤先生の名を広く学問の世界に知らしめたものでした。

そこで取り上げられているのは芥川龍之介の「西方の人」の次の一節です。「クリストの一生はいつも我々を動かすであろう。それは天上から地上に登るために無残にも折れた梯子である。薄暗い空から叩きつける土砂降りの雨の中に傾いたまま。」

ここには芥川流のいく分センチメンタルな表現はあつても、神のひとり子でありながら地上につかわされ、人間の理解を得られず無残にも処刑されたキリスト・イエスの姿が鮮明に表現されています。芥川は冷徹な芸術至上主義者であろうとしながら、一方で宗教

的な救いを求めつづけた作家であり、37節に及ぶ「西方の人」さらに22節の「続 西方の人」をその最晩年に執筆するほど、深く聖書に学びました。「続 西方の人」は芥川の遺作となりました。従つて、この「天上から地上に登る」という逆説的な表現にこそ、キリスト・イエスのこの地上で果たそうとしたことの真実が、芥川によつて表現されていることが理解できるのです。

しかし、当時、第一線で日本の近代文学を導いていた吉田精一氏は、その芥川論の中で「地上から天上に登るために」と誤つて引用し、それは2か所にわたつています。佐藤先生はそれを取り上げ、些細に見えながらも、この誤用にこそ、日本人とキリスト教、あるいは日本の風土とキリスト教の本質的な問題がある、と指摘されたのです。それは、吉田氏がキリスト教に対する本質的理解を欠きながら、聖書に学び続けた芥川を正しく考察できるのか、という問です。あるいは、あなたは芥川の苦しみに本当に寄り添っているのか、という問です。

吉田氏の反論は、芥川は単に書き誤つて「天上から地上へ」と書いたのだ、というものでした。これに対し、当時、作家、評論家として活躍していた高橋和巳氏は、

佐藤先生の論旨を深く理解し、「キリスト教の投影」と題された書評の中で、こう述べています。「『地上から天上へ登る』と、文法的にはよりスムーズな形に逆転されたことに、キリスト教精神、キリストというペルソナとの対面を回避して、一般的なヒューマニズムに融解してしまった日本近代精神が象徴されている」

つまり吉田氏にとつて、宗教とは地上的な苦しみから解放してくれるもの、自己を救ってくれるもの、自己を救つてくれない、という通念しか見えていない、ということなのです。「キリスト」というペルソナと対面する」ということは、キリストによつて救われることであると同時に、キリストによつて激しく問われることであり、もつと言え、キリストにまづくことであることを高橋氏はよく理解しているのです。要するに、天上から地上に登るといふことは、もしそれを実行したら頭を下にして降りてくるということになり恐怖に駆られる状態となる、ということに他ならないからで

す。佐藤先生がこの誤用を発見されたということは、佐藤先生も又、研究生活においても、実生活においても「梯子を下に向かつて登る」ということを実行されていたとい



しようか。佐藤先生は「近代文学とキリスト教―中原中也の位置」と題された講演で、同様のことを別の言葉で次のように語っておられます。「お互いに文学と宗教が、信と認識とが向かい合う、交差する。もつと極端に言えば刺し違える。文学が宗教に向かって差し込んで行く、そうすると今度は、その作家、文学者が宗教の側からまた問われる。つまり両者が刺し違えるということです。」

「刺し違える」とは確かに極端な、過激な言葉です。しかし、佐藤先生にとって、問うことは、そのまま問われることであつたのであり、そこでおのれに返ってくる刃によって血が流れる場所にか、真実は立ち昇つて来ない、と確信しておられたに違いないのです。「宗教と文学は二律背反ではなく二律相関である」とは常に言いつづけられたことでしたが、そのはざままで苦闘することではじめて真実に到達できるというのが先生の信念でした。

佐藤先生が生涯にわたって愛された宮沢賢治の例をとつて、このことをもう少し考えてみましょう。賢治は生徒から慕われた有能な教師であり、天才的な文学者でもありません。その道を歩みつづければ、おそらくもつと沢山の教え

子に強い影響を与え、日本文学にもつと素晴らしい寄与をしたことでしょう。しかし、彼はそのような高い位置に身を置くことをしませんでした。彼の信ずる宗教(法華経)が文学者としての自己を問ひ、その回答としてあえて自己の資質に合わぬ世界に身を置いたのです。教師を辞め、農民のため文字通り死力を尽くして働きました。37歳で病死しました。

ここには自己の特権を、問われることよつて放棄した、賢治の尊いともいえる姿があります。まさしく、天上から地上に登る梯子は折れてしまつたのです。しかし、それで終わりではありません。彼は最晩年、自己の人生をさらに徹底して厳しく見つめていました。自己の歩みを「失敗」と位置づけ、最後に書いた友人への手紙の中に次のように述べています。「私の惨めな失敗はただもう今日の時代の巨きな病、『慢』というものの一支流に過つて身を加えたことに帰因します。」最晩年の賢治には、「社会を自分の力で変革する、問題点を自分こそが解決する」という決意そのものが慢心の表れであつた、という深い反省があつたということ。それなしに、誰からも評価されないデクノボーになりたいというあの「雨ニモマケ

ズ」の奇妙ともいえる願ひは成立しなかつたに違いありません。賢治はこの時さらに深く「問われる者」としての自己を自覚していたのです。少なくとも佐藤先生の言われる「刺し違えて流れた血」が彼の体中を駆けめぐつていかにちがいないのではありませんか。佐藤先生の賢治への深い共感はこの発するものであつたにちがひありません。

私たちは今、本当に難しい時代を生きています。何が真実なのか、何が正しい道なのか、わかりませぬ。本当に途方に暮れることがしばしばです。しかし、佐藤先生が身をもつて示された「問う者は問われる者である」ということを今こそ深く心身に刻むことで、この混沌とした現実を生きぬくしかないのではないのでしょうか。

今日読んでいただいた、聖書にいう「神とともにある言葉」、「命が内在する言葉」、「暗闇の中で輝く言葉」とは、いいかえれば血によつてあがなわれた言葉ではないのでしょうか。そのような言葉をみずから生み出すこと、それをたゆまず実行していくこと、それによつてのみ、梅光のこれからの百年は創り上げられるのではないのでしょうか。(2016年1月30日)

佐藤先生は、その長いご生涯を、最後の最後まで現役のまま、しかも先頭に立つて、私たちを導き、歩みぬかれました。その指導を受けた者の恵みの深さを、お亡くなりになつた今、私たちは改めて、身に沁みて感じさせられております。先生が、私たちの前に初めてお姿を現されたのは、有名大学の有名教授といつた権威づけられたものではありませんでした。地方(山口)の私学、しかも一中学高校の教員として、蕪村や近代詩、さらには独自の芥川論を発表され、キリスト教と近代文学の本質について問い続けられたお仕事によつてでした。

佐藤泰正先生追悼

学校法人活水学院 理事長・学院長 奥野政元



佐藤泰正先生 本当にお疲れ様でした。先生は、その長いご生涯を、最後の最後まで現役のまま、しかも先頭に立つて、私たちを導き、歩みぬかれました。その指導を受けた者の恵みの深さを、お亡くなりになつた今、私たちは改めて、身に沁みて感じさせられております。

先生が、私たちの前に初めてお姿を現されたのは、有名大学の有名教授といつた権威づけられたものではありませんでした。地方(山口)の私学、しかも一中学高校の教員として、蕪村や近代詩、さらには独自の芥川論を発表され、キリスト教と近代文学の本質について問い続けられたお仕事によつてでした。

一方で先生は、その信仰に基づく理想を現実にも創造する、教育者としての使命にも深い志しを持っておられました。それは先生が梅光学院で、短期大学、大学、大学院を創り上げていくお仕事のうちに、如実に示されています。その

して学校経営、運営者としての先生は、実に強い人でした。その強さの一面を、私はこの目で現実に見せつけられた経験を持っています。それは磯田光一さんとの会食中の会話でした。先生は大学院博士課程を立ち上げる時に、磯田先生がおられなかったら、梅光の大学院はできなかったと、いつも心から感謝をされていましたが、磯田さんの晩年、下関で会食を一緒にすることになり、たまたま下関に来ていた私も佐藤先生のご厚意で誘われました。その頃の磯田先生はずいぶんお疲れのように見えました。その磯田さんに向かって、佐藤先生は次年度の梅光学院公開講座で数回に及ぶ講座を担当していただきたいと、お願いされたのですが、磯田さんは一瞬その表情が変わり、顔を上げたかと思つと、「皆さんは私を何だと思つているのですか」と強く抗弁されたのです。そんな余裕はないのだ、と言いたかつたのでしよう。教刻、座に沈黙が流れ、気まずい雰囲気になり、私も心配しながら佐藤先生のお顔を窺つたところ、先生はうろたえることも、臆することもな



く、まっすぐに磯田先生の顔を見つめて対峙しておられました。それは、私心なくすべてを文学と教育に捧げる、命がけの覚悟については、あなたも私もありないはずだという、強い決意に満ちたものでありました。

また一方で、先生はお得意の駄洒落で、いつもその場を明るく開いてくださいました。「佐藤、お前はまだまだやすすまさん」と神様が言われるので、まだ頑張ると、最後に洒落ておりましたが、今私

研究即人生 — 追悼 佐藤泰正先生

元本学大学教授 宮田 尚



梅光女学院に着任する前に、佐藤泰正先生

との接点が二度あった。いずれも間接的な接点だ。先生は、ご存じない。

一度目は、学部二年の時だ。国内留学中の先生と、早稲田大学国文学会の、研究発表会終了後に開かれた懇親会で同席した。

初めて出席した懇親会は、学部生には場所違いだった。いかにも居心地が悪い。出席したことを後

は、それは先生の解釈が違う、神様は先生を「休ませてあげよう」と労わられた、そのように解釈すべきだと反論したいと思いが、もはやこの世に先生はおられません。私たちが後に残されたものは、先生を失って呆然としています。先生、神様のもとにおられるその場所から、今後は私たちを、また特に梅光学院を見守り続けてください。

追悼 佐藤泰正先生

元本学大学教授 宮田 尚

悔しながら、発表者としての先生のスピーチを聞いてみると、同郷の大先輩だよと、やはり山口県出身の先輩に耳打ちされた。

だからといって、挨拶に行っただけではない。末席から遠く眺めていたのだが、なぜか、その時のことは妙に記憶に残っている。

二度目は学部を出た翌年、一九六〇年のことだ。わたしの学界デビュー論文が、国文学会の機関誌に掲載された。

同じ号に、先生の論文も掲載されていた。これは後で知ったことだし、先生にとってわたしは、数

人の執筆者の中の一人にすぎない。

けれども、わたしには密かな自慢であり、大きな財産だ。

それから八年後、梅光女学院に大学が開設されるにつき、一員に加えていただくことになった。

佐藤先生とは、その時初めて言葉をお交わした。先生は新任のわたしに、梅光の機関誌に毎年論文を書くことのほかに、もう一本は書くよう求められた。

当時、先生は四十代後半。新設大学の副学長として多忙を極めていたはずだが、次々に論文を発表なさった。率先垂範である。

若手の教員にとって、これは脅威だった。何としてでも書かざるをえない。

それからおよそ二十年。若手も、いつの間にかやら五十代になった。ソウルオリンピック前年のことである。韓国外国語大学の大学院に、一年間出講することになった。書きためた論文を、一書にまとめるよい機会だ。ソウルの宿舎で作業を進めていると、先生から国際電話が入った。せつかくまとめるのなら、学位論文にしたらどうか、とのこと。またまた宿題である。

思えば、佐藤先生に育てられ、鍛えられた研究者人生だった。あ

る時は無言で、またある時は言葉に出して背中を押してください。怠惰なわたしだ。先生の視線がなければ、もっともらしい理由を付けて、論文執筆をサボっただろう。

研究即人生。先生の目は、つねに研究に向かっていた。昨年六月、『文学の力とは何か』を出版なさっ

佐藤泰正先生を偲んで

元本学大学宗教学主任 湯 木 洋 一



年末から年始にかけて、多くの梅光女学院

大学の卒業生たちから電話がありました。佐藤泰正先生の訃報でした。

梅ヶ峠の小さな学舎の前に佇んで、眼前の自然を眺めておられる佐藤先生の姿が、今、思い出されます。果物の樹々が見える梅ヶ峠の小さな山、そして梅光女学院大学の学舎。静かで美しい風景がありました。この自然のなかで、学生たちと教師の距離は近く、

諸君はよく学びました。先生はこのような静かな大学の責任者として

た。八八〇頁の大著だ。八月に会いしたときには、次の出版計画を、楽しそうにお話になった。研究意欲は、とめどもなかった。

来年は数えの百歳。著作集完成の時のようなお祝いを、と数人の仲間と話したばかりだった。

かけがえのない先達を失った。喪失感、深く、大きい。

の働きを誠実に続けておられました。

佐藤先生と私は、それぞれの領域の研究について、しばしば語りあいました。文学作品であれ、哲学・神学的な論文であれ、筆者が用いる大切な言葉の歴史と意味を正しく深く理解することが研究の前提であることを了解しあい、話は外国の古典の古典や聖書の日本語訳や讃美歌の言葉にまで及びました。その過程で、戦中戦後に育った私の日本語の弱さを悲しい思いで自覚せざるをえませんでした。

佐藤先生は、いつも、静かに語っておられました。静かに思慮深くです。梅ヶ峠に大学開学後、しばらく



して小さな会合がありました。何の会であったか記憶していませんが、最初に自己紹介をすることになりました。私も自分を語りました。私は古代ギリシャ哲学から新約聖書、さらにヨーロッパ社会へと展開するパイディアの理念の歴史的研究と、その思想を受け継ぐと自らを語る日本近代学校教育の歴史を検討することが、私の研究課題であり、まだお会いしたことのない石井次郎先生の小さな論文に勇気付けられていることを語りました。次に、私の隣りの座席の方が立ち上がり、語り始めました。「私は石井次郎と申します。……」。私は小さな叫び声を発して腰を浮かしかけました。正面に、佐藤先生の顔がありました。あの静かで穏やかな笑顔。私はあの

時のことを忘れることはありません。そつと座って頭をさげました。このような意志の伝え方は、私には無理です。更に今ひとつ、佐藤先生がある作家について語られる時、原稿なしに、先生の口から出てくる作品の言葉の量です。また、その正確さです。先生は、そこまで、作品を読み込んでおられたことを私たちは学ばねばならないでしょう。佐藤泰正先生を偶像化してはならないと思います。しかし、このころとは、落ち着いて、学ばねばならないでしょう。大学は名誉や権威を得るためではなく、そこで学ぶ者が、自由に、自らの生きる道を探求するために在るのですから。主のもとの佐藤先生の平安を祈ります。

詩的研究者佐藤泰正先生

元本学短期大学教授 宮野光 男



佐藤泰正先生は詩的研究者です。つまり、先生が言葉に対する豊かな鋭敏な感受性と、人間に対する深い洞察力に恵まれた方であつたという意味です。

的」とは、(詩の)という意味でもありますが、もつと根本的な、生きかたそのものに関わる言葉で

の樹」(昭和二五年十一月)がそのことを表しています。研究論考としての最初のものは『蕪村と近代詩』(昭和三七年四月一日)で、芭蕉や蕪村に受け継がれた日本の文学的伝統が、近代の詩人たち、たとえば子規や朔太郎などどのようを受容され定着していったかを明らかにされたものですが、(著者自身すぐれた詩人であるところからのするどい洞察ときめのこまかい論理とのないまぜで、飽くところのなく食いさがつてゆく)、(「みごと」な説得力を)もつた論であるとの指摘(稲垣達郎「序」)は、佐藤先生の生涯を通して追求された文学研究者としての歩みを、みごとに言い表しているということができます。

若き日に、ドストエフスキーとの出会いを通して文学開眼を体験された先生が、生涯を通して熱く語られた文学は、その対象が詩人であれ散文作家であれ、彼らの文学を貫いて生きていくポエジーと共振して読者の魂に感動をもたらしているのです。その全容は、『佐藤泰正著作集』全十三巻によって知ることが出来ますが、最後の著作『文学の力とは何か 漱石・透谷・賢治ほかにつづ』(翰林書房 二〇一五年六月)は、(その続刊ともいべき一冊)「あとがきに代えて——回想風に」で、

先生がこの中でくり返し述べておられるように、文学が、あくなき人間追究であること、漱石の言う(人間を押し)試みであり、そのことを通して(我々人間の魂はひらかれて、おのずから祈りに傾くものとなる)という思いこそ、先生の文学を貫く詩人性の開示でありましょう。

文学の力とは、言葉の力です。佐藤先生の響みに倣って言えば、文学は祈りの言葉でもあるのです。祈りは、魂の言葉です。そして祈りについては詩となるのです。詩人とは言葉のいのちが愛であることを知っている者のことなのです。その意味で、佐藤先生はまさに詩人であり、詩的文学研究者

と呼ばれるにふさわしい方なので、もうひとつ忘れてならないことは、最初の詩集『夜の樹』が、京夫人の装幀になるものであり、最後の『文学の力とは何か』の表紙にも、京夫人の「罌粟」が装画として引かれていることです。これは、カインを題材にした作品のひとつで、佐藤先生は、われひとともにカインの末裔ならざるはなし、という聖書の人間観への共感に基づいたものであると書いておられますが、このところに、佐藤先生の詩的文学研究が、京夫人とのコラボレーションのみことな結実であることを象徴的に表現しているということが出来るのです。

「命二つ中に生きてきたる桜かな」

元本学大学教授 現自由学園最学部長 渡辺憲司



下関は、私にとって学問の出发点である。この地で長州の文芸史に出会わなかつたら、博士論文としてまとめた「近世大名文芸圏研究」(八木書店)もまったく進展しなかつた。

たであろう。そして何よりも、日本の遊郭史でもっとも古い歴史を持つ下関稲荷町との出会いが、その後の私の研究を方向づけた。はかり知れない学恩を下関の地、梅光女学院に私は感じる。その中心に佐藤泰正先生がいた。先生の存在なしに私の学問は前へ進まなかつた。

30歳代のほぼ10年を、私は家族



とともに下関で過ごした。先生には御宅が同じ町内であったこともあって、家族ともどもお世話になった。到来の蟹を子供たちと一緒に居間で車座になって食べたりもした。

下関時代の私は、放埒に加えて若さがあった。学長であった先生の前で、首をうなだれて、始末書を書いたこともあった。

先生の寛容が私を救い、発奮に力を得た。学恩とは違う、人生への恩義のようなものも感じていた。

「命二つ中に生きたる桜かな」この句を前任校の入学式で引用した。その話が週刊誌で話題になったこともあるが、芭蕉のこの句は佐藤先生が入学式で引用するオハコのようなものであった。私の話はバカリだ。

今、命二つ、先生と私の間をつないだ細い糸のようなものを感じる。「文学が人生に相渉る時―文学逍遙75年を語る」(笠間書院2013年)で、先生は東日本大震災の後の我々に次のように語りかける。「あの天災、また人災に巻き込まれた人間の命の矛盾とは何でしょう。絶望すれば切りもない。しかしまた希望する力にも限界はない。ならば、この世界の、地上の、一微物として存在する人間の矛盾そのものを、その極限まで問

い続けて行くものこそが真の(文学)」というべきでしょう。この課題だけは失わず、今しばらく人生をすごしていきたいものだと念っています。」

宗教と文学の狭間に先生の研究があった。16歳の時に出会ったドストエフスキーの「罪と罰」が原点であるとも聞いた。人生の矛盾を直視し、その矛盾に垂直線を立てよと力説した。

私にとって忘れがたい一書は、「蕪村と近代詩」である。

孤高の輝きを持ち、行間に祈りが立ち上がる評論であった。蕪村の浪漫主義が個の自立から生まれたいものであることをこの書で知った。蕪村の出離の寂然に惹かれてその詩を暗誦した若き日を思い出す。屹立した言葉一つ一つが、若い日の私の胸をたたき文学への道を導いたのである。佐藤先生と蕪村は重なっている。

12月1日の朝、新幹線に飛び乗って前夜式(通夜)に参列した。港のそばの小さな教会である。先生の訳した讚美歌がうたわれ、最後の別れがあった。先週の月曜日には、信徒大会の大きな会場で講演をし、土曜日にも講義をしたそうである。座りながら崩れるように亡くなったそうだ。98歳の誕生日を迎えたばかりであった。

「自由学園に行くことになりました。」
「羽仁吉一先生は同郷だよ。理想のある学校だよ。」

電話口での会話が最後になった。帰りの車窓が朝焼けで染まっていた。
2015年12月2日 新幹線にて

志学の人

元本学大学准教授 湯 浅 直 美 (大6)



「梅光女学院は全く無名のプロテスタントの大学院はゆき子。国語学には藤原与一、岡野信子、白木進。言語学には大津不二也。漢文には小川寿一、林盛遠。書道には田中江舟、吉野正得。一七人の先生から教えてもらえる三五人。単純計算で二人に一人の先生とは、なんとも贅沢な学生たちでした。」

の大学だが、良い先生が二人居られるので安心して行きなさい。」私が通っていた戸畑の明治学園高等学校の校長様の言葉を思い出します。良い先生二人とは、広津信二郎先生と佐藤泰正先生のことでした。

とところで、明治学園の前に、同じくカトリック系の鎌倉清泉女学院に通っていた私にとって、梅ヶ峠の大学校舎は、なんとも簡素なたたずまいでした。208号教室の黒板に臘脂のカーテンを引いて礼拝堂代わりにしているような教室です。十字架はなく、聖母像や聖母子像もなく、ステンドグラスも当時は存在しない。一見、ここはキリスト教主義の学校なのだろうかと疑われるくらいです。

私が入学したのは一九七七年(昭和四二年)四月。国文学科入学の同級生は三五人、定員五〇人を割った人数です。少数精鋭と言えば聞こえはいいですが、まだ「文学の梅光」の名前が世間に広がる前の時代です。
とはいいいながら、教師陣は素晴らしいものでした。非常勤も含めて、国文学には佐藤泰正、重松信弘、服部嘉香、高橋貞、宮野光男、武原弘、志村有弘、宮田尚、古庄

私自身はキリスト者ではありませんが、母方は四代続いた聖公会の信徒で、我家には神棚も仏壇もありません。門司の警察署長をし

ていた曾祖父は、門司聖救主教会に納骨堂を寄付していましたし、自宅で日曜学校や祈祷集会を開くこともありました。ですからキリスト教の雰囲気には慣れていたのに、梅光はどうもそれらしくないのが不思議でした。

さて、佐藤先生とは、門司のめかり山荘で行われた新入生オリエンテーションで、少人数に分かれた分科会「学生生活をどう設計するか」にいられてお話しした時に始まり、一年全員必修の「文学」の講義からゼミを含めて四年間、さらに大学院でもお世話になりました。

ご自宅で月に一回開催されていた読書会には、大学一期生で梅光中高の副校長まで務められた清川さん(現片山さん)や、短大から大学院に編入され、関西学院大学の大学院に進まれた後に梅光中高の教員になられた志保さんのような、錚々たる先輩方が居られました。そういう方々に交じって、叱られたり褒められたりの中から学べたことは大きな財産でした。
そうして学びを重ねて行くうちに、佐藤先生が文学を語られる言葉の奥底、またその行動の下を支援している思想、それは人生観とも宗教観とも呼べるものかもしれませんが、その中にキリスト教が通奏低音となっていることに気付か



されました。押しつけがましくなく、しかし絶えることなく流れ、佐藤泰正と言う人の根幹にあって、その志を形作っている。

そうか、梅光には十字架も聖母子像も礼拝堂もないけれど、キリスト教主義とは何なのかを若い学生たちにその存在そのものによって明らかにしている佐藤泰正という

先生は心の中に

北九州市立大学 非常勤講師 金 貞淑 (大20日)



佐藤先生が召天されてから早くも7ヶ月になります。しかし私には未だに先生のご不在が実感できず、頼まれた「追悼文」の前で戸惑いを感じています。「共に生きて、生かされて」という先生の文章の中に「亡くなった方は、消えてしまったのではない。私共の心にしつかりと生きていく」と書いておられます。今の私の心境はまさにその通りです。先生は、ご自分が逝った後、私いや先生の死を悲しむ多くの人々にはからずもそうありたいというメッセージを送ってくださいだったのでしよう。

生きた証がある、そう気付いた時、何か大きな発見をしたような心持になりました。

佐藤先生はよく「私学とは志学である」と語っておられました。その志とは何だったのか考えることが、今の梅光の、そして私の、宿題です。

間的にも私を育てて見守ってくださったのです。

こんなこともありました。就職したばかりの時、日本の社会を恙無く渡っていくべく、先生からくれぐれも気を付けるように、と言われたのは、「自己主張」をあまりしないようにとのことでした。先生のお言葉にしたら古臭く思われるかも知れませんが、これは自己主張の強い韓国人の気質を特に多く持つ自分の性格をよくご存知で、そんな性格が災いしたら大変だと心配なさったからに他なりません。まさに「親ごころ」でした。

古い日記の中にこう書いたものがありました。(今日、佐藤先生から思いかけず電話をもらった。よく書いたという励まし声。落ち込んでいたので感動。先生、元気出します！涙ぐむ。感動が覚める前に早速台湾の友にメール。感動のおすそわけありがとう。実は私も今ちょっと元気がなかったので元気出しました。佐藤先生の言葉ほど良い栄養剤はありませんね。彼女からの返事。今日はいいい日。)

そうです。先生はいつも私達に力を与え、私達を生かしてください。先生のお歳を思うと別れは当たり前ですが、私は先生は百歳まで生きると信じ切っています。

先生のお歳を思うと別れは当たり前ですが、私は先生は百歳まで生きると信じ切っています。

た。なぜならば、昨年11月26日、お誕生日のお祝いのお礼の電話で、今年の漱石没後百周年には、先生は講演を、私は漱石最後の作品の『明暗』を韓国語で翻訳し出版する、との師弟の約束をしたか

追悼 佐藤泰正先生

徳山工業高等専門学校 教授 一色 誠子



佐藤先生。写真の中の先生は、今日も優しい

い笑みを浮かべて、私達たちを見てください。

ある時、こんな話をしてくださいました。「僕はね、神様が、『佐藤泰正さん、あなたのことを休ませよう』とおっしゃるから、頑張っていますよ。ひとまず、百歳までは頑張ってみるつもり。二〇一六年は、漱石没後百年。二〇一七年は、漱石生誕百五十年だからね。目標を立てて、いろいろと考えているのですよ。」そうおっしゃって、執筆のご計画などをお話してくださいました。昨年六月に刊行された『文学の力とは何か』。京夫人の描かれた絵を装幀に纏い、今にも先生のお声が聞こえてきそ

らです。今、一番悔しがっているのは多分先生でしょう。

これからは心の中の先生に問い続けながら、先生の教え子らしく前向きに生きていこうと思えます。先生、安らかに眠りください。

うな、ずしりとした一冊のあとがきにも次の著作集への希望が語られていました。ですので、先生、お別れは突然にやってくるものなのです。

先生が天に召されてから、ご著書を少しずつ読み直しております。緻密で鋭く切り込んでいく研究者の眼。作品を、文学を大きく広く捉えながら、主題に向かってフォーカスしてゆく圧倒的な筆遣いを感じながら、過ぎし日のことを思い出しております。

先生が学長職に就かれていた時の、あの入学式の祝辞を今も深い感銘とともに心に留めています。「命二つの 中に生きたる 桜かな」の芭蕉の句が始まり、漱石の『三四郎』を引き、小川三四郎が、熊本から東京に出てくる件を話される先生の語りによく似て引き込まれ、文学を学ぶというこ

と、大学で学ぶということ、とりわけ梅光女学院大学で学ぶということに、大きな希望と期待を懐いたことを思い出します。祝辞の最後に、先生は大きな問いを出されました。「『大学とは、と問われたら、私が大学である』と答えることのできる四年間を過ごしてください。」と。

学部では、学内読書会やゼミで、先生は実に多くの対話と討論の間を作ってくださいました。ゼミでは、折に触れてご自身の歩んでこられた道についてお話をしてくださいました。卒業式の祝辞では、マケンデーホールのレストランで、ス越しに差し込むやわらかな光の中、「心豊かに、頸い人として歩んでいかれることを願ってやみません」とのメッセージをくださいました。

「問い、問われ、あらゆるものに好奇心をもち、書物との出会い、人との出会いを通して心豊かに、そして、揺るがぬ信念を持ち、しなやかに時代を歩んでゆく」——先生が、私たちにくださったメッセージは、ある意味、先生が歩んでこられたお姿に重ね合わせずにはおれません。

学部を卒業後、引き続き大学院で先生のご指導を受けることができましたことは、大変幸せなこと

でした。大学院でのご指導は、学部のそれとは違い、先生の厳しい面に接することが多々ありました。その厳しさとは、学問に対する、研究に対するものでした。とかく新しいものに飛びつきたがり、作品の表面を撫でるようにしか読めていなかった時、先生は静かにこうおっしゃいました。「作品と、とことん向き合ひましょう。真正面からぶつかっていかなければ見えてこないですよ。」「あなたは、この作品の向こう側にいる作者を、どう捉えていますか。」

「この作品は、この作家の全作品の中でどのような位置づけなのか。一度、全作品を串刺しにして見てごらん下さい。今、見えている景色とは、全く違う景色が広がって見えますよ。串刺しにするものが何なのかを、しっかりと見定めることも肝要です。」これらのご助言は、時を経て再び心に響いています。

就職をしてからも、うれしいことがあり報告申し上げますと、とても喜んでくださいました。悩み多く、行き詰まった時に相談いたしましたら、お忙しいにも関わらずじっくりと話を傾けてくださり、何時もさりげないひと言葉をかけてくださるのです。どれほど、ありがたかったことか。

こういうことばがあります。「花

びらは散っても、花は散らない。人は逝っても、人の面影は残る(金子大榮)」と。——先生の面影は、遺された多くのご著書の中にあります。これらはこの先、何十年と読み継がれていくことでしょう。先生が、私たちひとり一人にかけてくださいましたおことば、お教えは、私たちの心の中に一輪の花となつて咲き続けてゆきます。心の中に咲いた花は、散ることも、枯れることもありませんから。

先生からいただいた学恩に、ま

佐藤先生との最後の約束

櫻の森通信社 代表 柴田良一



考えてみると四十年前に私は佐藤泰正先生に出

会っている。私は当時小倉の魚町で金榮堂という本屋をやっていた。その時私は二六歳、すると先生は五八歳だったのか。

端からどう見えようが、先生がお亡くなりになるまで、先生を前にした私はいつも二六歳の半端な若造であり、先生は深淵とした壮

だ何一つお応えすることができず、道半ばです。しかし、いえ、だからこそ、しっかりと前を向き「光の子として歩んで」まいりませう。

佐藤泰正先生。永い間、本当にありがとうございました。どうか、先生の御霊がやすらかでありますように。

※この文は、追悼礼拝・お別れの会で、お話をさせていただいた内容を記しています。

これから文学の人生に与える力を伝えたいという最後のテーマであった。

先生は生涯学習講座アルスでの講義でこのテーマと格闘された。ご高齢ゆえに滑舌が悪くなつて、喋ることに時間がかかると嘆かれながら、せめてこれだけは、と先生を慕う百名を超える受講生の皆さんに問題を次々と投げかけられた。それは日本中どこにもない奇跡の光景であった。九〇分の講義を三〇分以上も延長して語り続けられたこともあった。それなのに、「いい足りない所はまだあります。柴田さんいいますね」と前列で記録している私に向かっていた。ずらっぱく微笑まれた。そして電話で何度も「この講義をあなたの思うように、切り刻んで纏めて下さい」と言われた。

先生の機関銃掃射のような講義の録音を何度も聞きながら、わからないところは何度も聞き直し、曖昧な部分は原典となる対象の作品を読みなおし、自分なりに理解して先生の言わんとするところを炙り出そうとした。先生の九十歳を超えての挑戦をなんとか形にしたいと思った。そして年内には二、三章くらいをお見せするつもりだった。最初に芥川龍之介の章



をへ人間を押すのです。文士を押すのではありません」という漱石が芥川に送った言葉を副題として完成させた。そして次の太宰治の章を(芥川の枕頭から聖書を持って立ち上がった人)と決めた時、ああ、これで流れができたなど、先生の喜ばれる顔を想像した。原稿をお見せする日が楽しみになった。

先生の訃報を頂いたのは、そんな興奮をひとり温めている時だった。間に合わなかった。私は日々、

自分の非力と怠慢を嘆いた。そして自分の父が死んだ時よりも涙が溢れて止まらなかった。しかし、先生が召されたあの夕暮れのソファに座るお姿は私にまた大きな生きる力を授けてくれた。――生きるということとは、死ぬ瞬間まで生き続けることだ。――先生との最後の約束はまだ終わっていない。どのような形になるかはわからないが先生に喜んで頂けるものを作るつもりだ。佐藤先生があつたソファに座って待つていらっしやる。

先生安らかに

元本学短大・大学非常勤講師 安 富 恵 子



佐藤泰正先生は 一 一月 二 三日分 区信徒大

会に於て、一人ひとりの心を大切にしたい「天の家」での詩の教育について語られた。その一週間後、神様は何の苦痛も与えず臨時に先生を天へ召された。京夫人は「さつきまでわたしを喜ばそうと冗談ばかり言っていた人が急に静かに」と言われた。静謐な、余りに見事な凱旋であった。教会の読書

会で三七年間ご奉仕下さった。参加者一人ひとりの感想に「そうですわ」と先ず肯定してから説明された。学生を愛し、研究者仲間を愛し、同窓生を愛し、そして、全ての人から慕われた。今夏キリスト教文学会のセミナーで宮沢賢治を語られた講演が魂に肉迫する内容で圧倒された。いつも佐藤家を仰ぎながら、あの家には小宇宙が宿っている気がしていた。文学、宗教、芸術、音楽、映画等豊かであった。先生、ありがとうございます。

真の師・佐藤泰正先生

アルス梅光 金子みすゞ研究者 木 原 豊 美 (短コ3日A9)



佐藤先生を失つて、あらためて広辞苑で、

「教育」を開いてみた。――教える育てること。望ましい知識・技能・規範などの学習を促進する意図的な働きかけの諸活動。――なんと興味ない文脈であることか。対して先生は、文学は人間学であるという教育論を説いて旅立たれた。一九七一年、学長に就任された先生は「私学は志学である」と、学校を社会人のために開放し、先駆的な生涯学習への公開講座が始まった。私は十余年後、梅光出身

された京夫人の桜の絵二面は今も佐藤家のリビングに在り、京夫人は、行き届いたヘルパーさんと博士さんの連携のお世話を受けて、静かに神様からの「ご褒美時間」を生きておられる。先生、ご安心下さい。安らかにお眠り下さい。そして梅光をお見守り下さい。

木 原 豊 美 (短コ3日A9)

のPTAの友人に誘われて、先生の受講生となった。一九九七年、第七回宮澤賢治賞受賞記念祝賀会での先生の講話に、心底感動した私は、半年がかりでテープ起しをした。それがご縁で、心をかけて下さることとなったが、今も一層、「心の師」として仰ぎみている。当時私は、先生のテキスト論で、詩人・金子みすゞと向きあっていた。「文学は人間学である。作家が命を削った作品を読むとき、作家の育った時代背景、家庭環境、作品が誕生した頃の生活等と、作品を串刺しにして始めて、見えてくる、立ち上がってくる風景を引き寄せて、どう生きるかを考えるべきである。」みすゞは何故、童謡という手法を選び、何を表現しようとしたのか。二〇〇一年の春、五十七歳の私は梅光学院大学女子短期大学部に、社会人入学した。思いがけず翌年から、アルス梅光の金子みすゞ講座を担当することとなり、現在に至っている。私にとって先生の講座は毎回、至福の時間であった。力強く説かれる熱いことばに、励まされてきた。「ことば」には、愛に溢れた精神の脈搏と、真つ赤な血が通っていた。

「木原さん、あなたと私は(命二つの中に生きたる桜哉)ですからネ！若い学生にも同じことを言っていますが、本当ですよ!!」芭蕉が二十年振りに、服部土芳後に弟子となる)と出会った時の句である。わざわざの電話でのこの声かけは、無尽の財産となった。大の読書家であった先生は、丹念に膨大な書物を読破され、次々とそのエキスを説いて下さった。教育者としての人間性、文学の原点への鋭い視線の持ち主として、幾度も讃辞されたのは磯田光一先生であった。しかし私には、佐藤泰正先生こそがその第一人者であったと、公言してはばからない。あらゆる人間が抱えている矛盾。その矛盾である両極を手放さ

きである。」みすゞは何故、童謡という手法を選び、何を表現しようとしたのか。二〇〇一年の春、五十七歳の私は梅光学院大学女子短期大学部に、社会人入学した。思いがけず翌年から、アルス梅光の金子みすゞ講座を担当することとなり、現在に至っている。私にとって先生の講座は毎回、至福の時間であった。力強く説かれる熱いことばに、励まされてきた。「ことば」には、愛に溢れた精神の脈搏と、真つ赤な血が通っていた。



ないで問い詰めていくことは、至難の業である。そのことを先生は私達に、生まれた瞬間から始まっている死を見据えて、見事に生き抜いて見せて下さった。

今も先生のさみし気な声が聞こえてくる。「皆さんは実に、本を読まれせんネ。」私は恥じ入りながら、何も彼も御見通しの先生に敢えて、ご報告をしたい。先生、亡き先生を慕って文学とも、大いなるものとも対峙している青年達がいいますよ。みんな先生が育まれた若者達ですよ。感謝は尽きない。佐藤泰正先生心より、ありがとうございます。ありがとうございました。

佐藤泰正先生のこと

元同窓会会長 平良美代(高5)



佐藤先生は私が梅光中等部に在学中(昭和23年)水津米先生逝去の後、中等部校長になられ、以後高等学校長、短大・大学長に就任され、そのご生涯は梅光と共にありました。奥様の京先生は図画の先生でした。佐藤先生は野球がとてもお好きでした。私共の中学時代はソフトボールが盛んで、試合の折々、先

年もの長き間、学生・院生の英語教育育成のためご尽力下さいました。特に『留学』に関して学生の立場に立って、真摯にご指導手引して下さいました。どの学生も自分の道を進むことが出来たと心から感謝しております。先生は2015年9月17日93歳で地上の旅人としての生涯を歩きぬかれ、召天されました。生前のご指導を感謝申し上げます。安らかに想われますようお願い申し上げます。

向山義彦先生

ご逝去されました



義彦先生は1977年4月大学文学部教授として就任。2012年3月大学院客員教授とし退職されるまでの35

向山義彦先生を追悼して

元本学大学院教授 吉津成久

向山義彦先生(以下、義彦先生と呼びさせていただきます)が二〇一五年九月十七日天国に旅立たれました。享年九十三歳でありました。一九七七年から二〇一二年まで三十五年間にわたり、十九世紀の代表的詩人ロバート・ブラウニング研究者として梅光女学院大学

「どのようにお帰りになりますか」と問われ、「平良さんの車で」とお返事になると、「私も一緒に」とおっしゃり、私はお断りするこも出来ず、お二人をお送りすることになりました。事故がありませんようにと、必死に祈ったものです。佐藤先生は公開講座へ強い思いを持たれ、福岡、山口、広島、徳山で講座が開かれました。各地の同窓生へ呼びかけ、当日のお手伝いや人集め等をお願いしました。支部の方々の温かい協力を頂き、嬉しく有難く思ったものです。先生の講演は特に人気があり大勢の方が集まりました。終了後、先生を中心に同窓生や他の方々も加わり、協力へのささやかな感謝の気持ちでしたが、一緒にお茶を頂きながら語り合う時を持ちました。それはなごやかな楽しい交流のひとつでもありました。

講座がアルスメ光としてスタートして十年余りになります。土曜日には若い方からお年寄りまで、生き生きと楽しそうにキャンパスに大勢の方が集まります。年を取っても共に学ぶことは素晴らしいことです。佐藤先生は「梅光にはアルスがあるす」とおっしゃって皆の笑いを誘いましたが、先生の熱い生涯教育への思いが、このような形で残されており、これを、ほんとうにありがとうございます。

文学部及び大学院文学研究科教授を務められ、また、その間大学院英米文学専攻主任の要職にあられました。義彦先生は梅光に赴任される前、一九五七年フルブライト留学生として米国テキサス州のベイルラー大学(BAYLOR UNIVERSITY)大学院で学ばれ、同大学日本語・日本文学教員、ブラウニング図書館研究員などを歴任されました。梅光で留学制度が始まったのは、ベイルラー大学で教えておられたマイゼンハイマー教授がインディアナ州立大学(ISU)に転職されたのがきっかけで、同大学とテキサス州立女子大学(TWU)との交換留学制度が同教授と義彦先生の主たる努力で発足したのであります。一九七九年TWUへの第一回留学生二名を皮切りに、ISU、また新たにカリフォルニア州立大学フレズノ校(CSUF)、さらに梅光と同じキリスト教会派のノースウエスタン大学(NWC)などにこれまで長期(一学年で約十ヶ月)留学生三〇〇人以上、そしてベイルラー大学ほか上記の大学に短期(夏期)留学生



九〇〇人以上を送り出してきました。これら留学生たちが、卒業後、通訳ガイドやTOEIC講座担当教員などに携わって活躍しているのは、義彦先生と奥様の淳子先生から薫陶を受けて、異文化体験を積み、英語力と国際感覚を身につけたおかげであります。

さて、義彦先生のご遺族からとどいたお知らせによりますと、二〇一五年九月二四日、義彦先生の九十三歳のお誕生日に先生の「お葬式」ならぬ「卒業式」が行われました。悲しいことが大嫌いでアメリカに出かける時と同じような笑顔で次の世界へ旅立たれた義彦先生の意を酌んで、人生という学校の卒業を祝う式をご遺族は開かれたそうです。義彦先生の口癖は「すばらしいねえ」というもので、「人生と家族と文学を、いつもそう表現していました。」とご子息の貴彦様が書いておられます。初孫さんがお生まれになった時、義彦先生が病室に駆けつけられて、お嬢さんの貴子様にかつて「ばんざーい」と両手を振り上げて喜ばれたそうです。

梅光の教員同士の懇親会が開かれた折、私が余興に南こうせつ「妹」を歌ったことがあります。妹よ、ふすま一枚へだてて今小さな寝息をたててる妹よ、お前は夜が夜が明けると

雪のような花嫁衣装を着るのかこの時、義彦先生が何とも言えないいい顔をしておられたのを覚えてます。そして、これ以後余興でこの歌を必ず所望されました。義彦先生の胸の内には、お嬢様の新生活への旅立ちや米国留学を果たした数多くの教え子たちの実社会への旅立ちのことが去来していたのでしよう。

最後に、ご生前、同じ職場にあって、教育・研究の、また人生の先輩として貴重なご教示をいただいた義彦先生に衷心より感謝申し上げますとともに、旅立たれた次の世界の生活が幸せでありますように心からお祈り申し上げます。

向山義彦先生の思い出

平中(野原) 美砂

昨年末、奥様の淳子先生から義彦先生の最後のメッセージが記されたお葉書を受け取り、一日中涙が止まりませんでした。梅光に行けばいつでも先生にお会いできると思っていましたら私が英文研究室の仕事辞め、梅光を離れた二十二年、ずいぶん時間が経っていました。学生として、職員として梅光にいた十三年間、先生には多くのこ

とを学びました。一生懸命読んだ英詩。一晚中考えた宿題。私たち学生に真剣に向き合って文学の話をして下さった授業のノート、どれも私の宝物です。英文研究室では先生のもと、交換留学制度に関わる仕事などしていました。三年経ったころもつと英文学を勉強したくなり、大学院に進学し留学もしたと思ったとき、相談にのり応援して下さいたのは先生でした。親身に相談にのって下さった先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

二〇一二年一月に、「日米両大学位位同時取得交換留学制度開設のお知らせ」が届き、画期的な留学制度となるよう先生が尽力され、お元気で御活躍のことと拝察しておりました。その後梅光を退職し東京へ引越されたころの写真では、にこやかで穏やかな表情で、昔とお変わらない様子、懐かしく思っておりました。横浜に居りますので、お会いしたいと思っていましたのに、出かけて行く前に悲しい知らせを受け取ることになり、残念で悲しみでいっぱいです。

こうしてこの一文を記していますと、今更ですっかり忘れていた小さな出来事が昨日のこのように鮮明に蘇り、胸いっぱいになります。

アメリカへ夏期留学の引率で行かれていましたが、八月初め福岡で行なわれる大学院公開講座のために一時帰国し、終わればまたアメリカの大学に戻るというハードなスケジュールでした。そんな中、夜も寝ないで膨大な本を読んで講座の準備をされていました。先生のおからだを心配しましたが、先生はこんなことは苦ではないという様子で、すごい集中力をもって本を読んでいらつしやいました。先生の学問に対する姿勢やエネルギーは、今でも忘れることはありません。

先生のお葬式会場は、散歩道が遠くまで延びていく景色だったとうかがいました。本でいっぱい大きな重い茶色の鞆を持って、梅ヶ崎から吉母の方を回って散歩しながら帰られていた先生の姿を思い出しました。きっと最後は、式会場の散歩道を家族に見守られて、「じゃあね。」と手を振りながら天に向かって歩いて行かれたのではないかと想像します。義彦先生、梅光で先生と過ごした、充実したすばらしい時間をありがとうございました。ありがとうございました。

渡辺智子先生 ご逝去されました



校舎焼け教科書焼けし生徒らと
新任のわれ授業始めし
(智子)

渡辺智子先生は1946年から1985年まで常勤として、また以後1997年まで非常勤講師として、併せて51年もの長き間、家庭科教諭としてご奉

職下さいました。

いつもにこやかにユーモアを忘れず、一人一人を大切に育てて下さいましたが、2015年7月89歳で永眠されました。今は日本キリスト教団下関教会墓地に眠っておられます。生前のご指導に感謝申し上げます。生前のご指導に感謝申し上げます。生前のご指導に感謝申し上げます。生前のご指導に感謝申し上げます。

お別れのことば

畔津 寛子
(高16)

ナベ先生、お別れして幾日過ぎたことでしょうか。天国では梅光女学院の先生方と楽しくお話しをさ



第十五回梅光メモリアルデイ 今に繋げる思い

力丸 徳子(高8)

元本学短期大学英文科講師

昨年梅光学院が下関の地に誕生して百年という事で、私も特別な思いで記念行事に参加いたしました。私にとって少女時代を過ごした梅光の思い出は心豊かで素晴らしい、あったかいものだからです。

私たちは今を生き、梅光学院も

れているのでは？
先生との出会いは、私が中学一年生の時、先生の弟さんに数学を習い始めた時でした。先生のお宅では数学を習っている中、ドーナツの作り方などを色々教えていただきました。調理実習の時、鍋でご飯を炊くことなどしたことがなかったもので、ごっちゃん(硬い)ご飯になり、先生の口癖のような「あら、どうしましよ」をいつも耳にしていました。その後はご飯を蒸してみたりと大変だった事が今でも笑話となっています。
夏休みになると我が家のお墓参りにいく際に私の父が、先生がお寂しいだろうとお誘いし、湯布院、別府、大分と色々一緒にしま

したね。梅光の運動会の時などは役員で参加していた母と売店をしたり、一緒にお弁当を食べたりしましたね。

私の子供たちの運動会や行事の際にも教会の帰りに寄ってくださり、一緒に応援したりと楽しい日々でした。娘たちも弟先生に数学を習ったこともあり、先生とのお付き合いは、あれから何十年などと語り尽くせません。楽しかった日々は今でも目の前に浮かぶのですから。
唯一心残りがあるとすれば、先生に最後のお別れができなかったことです。それだけが本当に残念でなりません。

現代を生きています。私たちが育てられ、また梅光学院が歩んできた歴史は今に繋がっているわけです。今日はメモリアルデイ、既に亡くなられた教職員や同窓生の方々を偲び記念する日です。そうした方々に思いを馳せながら、私たちはこれ等の方々と共に今を生きているのだという思いでこの記念礼拝に参りました。

私は中学・高校の6年間生徒として学び、二十代後半の4年間を短大英文科の講師として勤めさせていただきました。今日は同窓生の一人としてここに立っています。そしてその立場から私個人としての思いを皆様と分かち合う事が出来れば幸いです。
梅光で学んだ6年間は私にとって大切な時期でした。勿論その後の人生で学んだ全てが貴重であることには違いないのですが、この時期は様々なことを柔軟に吸収できる年齢であり、反面傷つきやすく自我の成長と共に反発や批判の目が現れる時でもあります。その多感な6年間に多くの素晴らしい先生方に巡り合い育てられたことを感謝しています。

お世話になった先生方の多くが既に天に召されました。この記念日は広津先生のご命日でもありません。先生は心血を注いで梅光の発展に寄与されました。梅光に勤め

た時には色々教えていただき、生徒の時とはまた違った楽しいお交わりが出来ました。こうして語り始めると、次々と心に浮かぶ懐かしい方々への思いも深くありますが、限られた時間の中で語ることは叶いません。そこで、今回はお二人の恩師、V・M・マッケンジー先生と小笠原常蔵先生の思い出をお語りしたいと思います。最も長く教えていただき、公私共に交わりが深かった先生方です。
マッケンジー先生には3年間英語を教えていただきました。きりっとした魅力的な授業でした。先生の持つておられた宣教の精

神、信仰を土台とした人格教育は愛と献身に満ちていました。授業にも嫉にも厳しく、叱られたこともありましたが、宣教の情熱と生徒への思いと愛情には深いものがありました。
当時の宣教師館の周辺はまるで別世界でした。そこだけが水彩画のような柔らかな色合いの花々で覆われていました。そしてお住まいの中に入ると更に別世界。質素ではありましたが様々な工夫がなされていました。お宅にお招きいただき手料理をご馳走になることもありました。英語クラスの生徒を順次にご招待くださり西洋の

— ご案内 —

第16回 梅光メモリアルデイ

日時 2016年7月4日(月)13時30分より
場所 梅光学院大学
東駅キャンパス スタージェスホール
お話し❖「佐藤泰正先生の思い出」
*元副学長、現大学院非常勤講師 岡田喜久男先生
*元中学校・高等学校副校長 片山宣子先生
—DVDを見ながら—
合唱 コール梅光
指揮 澄川孝子(高23)
伴奏 田村優子(高27音)
*写真を掲げる場所を設けます。
(旧教職員、卒業生など梅光学院にかかわられた方々の遺影をご持参ください。)



テーブルマナー等を教えていただきました。それをきっかけに度々先生のお宅を訪れてお交わりの時を持つようになりました。後のアメリカ留学時代には、退役宣教師の施設におられた先生と手紙の交換をして、共に再会を強く願ひながらも、遂に叶わなかったことが悔やまれます。

素晴らしい教育者であり、信仰の友であり、厳しさと共に愛あふれる方であった先生をここに偲び、心から感謝をささげます。

小笠原先生は中・高の6年間、英文法と英作文を教えていただきました。素朴で思いやり深く、常に他人のことを優先していらした先生でした。その教授法は独特で分かりやすく、中学で歌や節をつけて文法の基本を教えていただいたことは今でも忘れられません。

先生の生活すべてが大変質素でした。その分、教会や必要としている個人や施設等に献金をしておられ、給料日には封筒に入れてそれを各所に届けておられました。また、梅光生のために自宅近くに教会を建て、バス停からそこまでの道路を自費で舗装したと聞いています。そして下関市に名誉市民として表彰されました。

人の悲しみや孤独、心の痛みをよくご存知の方でした。私は先生のご自宅に何度か伺ったことが

あります。私だけでなく先生のお宅には梅光生がよく訪れていました。先生は何でも率直にユーモラスにお話ししてくださいました。そしてその会話の中では必ず神様への感謝の気持ちを伝えられました。梅光を愛し生徒を常に思いやり、生徒たちにも慕われ続けた小笠原先生でした。

聖書に「心をつくし、精神を尽くし、思いを尽くして、主なる神を愛せよ」「自分を愛するようあなたを隣人を愛せよ」とあります。歴史に刻まれた大切なメッセージを受け、共に歩み育ててくださった多くの先生方の祈りによつて支えられてきたことを覚えます。

時代の変遷、社会事情の変化や少子高齢化の波の中にあつて課題はありますが、これからも梅光ファミリーの一員として共に祈り続けたいと思います。

今日はお二人の先生方を中心にお話ししましたが、梅光に与えられた使命の一翼を担ってこられた先生方や同窓生の思いを今に繋げていくことを願っています。そして学院のこれまでの道をお守りくださった主に感謝し、未来に向けてのお導きを心から祈るものです。

メモリアルデーに寄せて

磯谷 由美

(高25・大英7)

「七月四日」皆さんは何を思い浮かべられますか。

梅光学院について言えば、その日は、十六年前広津信二郎院長先生が亡くなられた日です。

当時千葉県で慌ただしく暮らしていた私が広津院長先生の御逝去を知ったのは翌年の梅光誌でした。その時は、梅光の一つの時代が終わったのだと寂しさと愕然としましたが、それも束の間で、その後子供達の受験、主人の単身赴任、親の介護と目まぐるしく過ぎていく日々の生活の中ですっかり忘れてしまっていました。

そして、四年前、下関に戻って来てから七月四日の「メモリアルデー」に参加するようになりました。スタージェスホールのステージ前には広津先生をはじめ、マツケンジ先生、河田先生、上本先生、吉田藹子先生、エルジンガ先生、小川泰介先生など懐かしのお写真が並んでいました。おひとりおひとりのお顔の前で感謝の気持ちと共に今の自分を報告しました。できる事ならばお元気なうちにお会いしたかったと悔やま

ます。卒業生の方々の写真もたくさんありました。その中に友人のお母様のお顔を見つたりもしました。

そして、礼拝、コール梅光の歌声、お話と続きます。スタージェスホールの高い天井いっぱい梅光に関わる懐かしい方々の想いが、そして想う心が一堂に会して梅光ファミリーという温かい空気に包まれます。

亡くなった私の母も卒業生です。クリスマス礼拝の帰路、丸山の坂を「きよしこの夜」をずっと口ずさみながら一緒に歩きました。よく同期のお友達と楽しそうに集まっていました。そういう時はなんだかセーラー服を着た昔乙女の母がそこにいるようでした。ふとそんな母を思い出して、携帯電話に入っている母の写メを出して膝に置き、母と一緒に参加するようになりしました。母もきっと喜んで皆様の魂と交わっているように思います。

七月四日は広津信二郎院長先生のご命日ではありますが、「メモリアルデー」の言葉の通り、広津院長先生をはじめとして、お世話になった先生方、先輩方、すでに亡くなられた同期の友人、後輩を偲び、一人一人の思い出(メモリー)を心に呼び起こす貴重なひとときであるような気がしています。

今年からは昨年亡くなられた佐藤泰正先生の御霊もいらっしゃる事だと思えます。

皆さんも「メモリアルデー」にいらつしやいませんか。

梅光メモリアルデーに参加して

後藤 智子
(高38・短日22)

二〇一五年は戦後七〇年にあたります。七〇年前の七月二日、二回目の下関空襲により丸山町の梅光女学院は記念館と院長宅を残し全焼しました。福田八十楠先生が院長に就任されて二日目の出来事でした。先生は奔走され、下関丸山教会や下関カトリック教会、現在の大学の場所に学び舎を確保なさいました。

院長先生をはじめとする先生方、有志の方々の熱意がなければ、開学一〇一年を迎えることはなかったかもしれませぬ。

梅光メモリアルデーは一五回を数えます。二〇〇一年から始まった記念礼拝です。二〇〇〇年七月四日に広津信二郎先生がご逝去され、後を追うようにマツケンジ先生が二日後の六日に逝かれました。今年と同窓会室へ同窓生四〇名



のご逝去のお知らせが届いていました。お一人お一人の御名前が記され御写真のある方は壇上に祀られていました。「皆様の御霊の上に、ご遺族の上に神様のお慰めがありますように。」と礼拝が始まりました。

礼拝の中で、力丸徳子先生のご講話がありました。先生は中、高をふり返り、恩師の先生方の中から特にマッケンジー先生と小笠原先生のお二人にふれられお話し下さいました。四代目学院長でもあるマッケンジー先生との出会いは、とても衝撃的で未知の世界への憧れを抱かされたこと、その憧れを現実的な方向へと近づけて下さったのが小笠原先生でした。お二人のお人柄に強い影響をお受けになられ、梅光とご自身のつながりに感謝をしつつ語られました。「全ての方々の祈りによって、梅光は支えられました。共に祈りましょう。ふり返るだけではなく、新しい時代をみましょう。先に召された教職員、同窓生を偲びつつ、今を生かされていることを感じましょう。」と祈りをもって締めくくられました。

二部、コール梅光の合唱はフォーレ作曲「レクイエム」から始まりました。死者の魂を慰め鎮めるための楽曲は、まさに暗黒から光の中に入っていくイメージで

した。「千の風」は、亡くなった人から遺された者たちへのあたたかいメッセージです。まさしくメモリアルデーに相応しい物語性のある二曲を捧げられました。こうして静かな感慨の中で、十五回目のメモリアルデーは幕を閉じました。

浜谷静枝同窓会会長は、「これから感謝と共に平安を祈りながらメモリアルデーを守っていきましょう。」と同窓生の皆様に呼びかけられました。

私は初めてメモリアルデーに参加させていただきました。この世に肉体はなくとも、その魂や精神は永く受け継がれ、より広く照らす光となり支えとなっていることを強く感じました。同時に、梅光に尽くされた方々、思いを寄せる方々への感謝の日であることを改めて知らされました。心静かに考え感じ祈る場をお与え下さいましたこと、新たな糧をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

恩師は現在

焦らず おおらかに

新村 君子
(元・中学高校家庭科教師)



桜のつぼみもふくらみ、やっと春の訪れを感じられるようになりました。

梅光誌への投稿を浜谷同窓会会長から依頼を受け、それを書く器ではないと辞退いたしましたがお引き受けすることになりました。私ごとで恐縮ですが昭和二十五年四月より平成五年三月まで梅光ファミリーの一人として、公私ともに大変お世話になり思い出が走馬灯のように脳裡を駆けめぐり懐かしさで一ぱいでございます。私が梅光に赴任した時はバラック建ての校舎で大雨が降れば雨もりのため

バケツを置いて凌ぎました。現在、本館の玄関に入る石の階段だけが戦前からのものとして残っております。

テレビや新聞などで梅光にとつてよきことが報道されると耳をそばだてて聞き、又じっくり読んでおります。

平成二十六年六月七日、下関開学百年記念行事が行われ伝統ある梅光の姿を実感いたしました。大きな喜びでございます。同窓生や職員の方々との「出合い」は私にとって大きな宝物です。

私は現在、免疫不全からくる脚の病気で、病院や施設をリハビリのため転々としております。行く場所が梅光卒業生の看護師さん、看護師長さんなど活躍しておられる方のお姿を見ますと「光の子らしく歩きなさい。」と教育を受けた成果が実ったのだと痛感しております。私はリハビリのため手作業をしており、タペストリーを作ったり、刺繍や染物、編物など楽しんでやっております。「努力すること」「支えて下さる多くの人々に感謝すること」を一日の生活目標にしてがんばっておりますのでみなさま、ご安心下さい。

人生でいちばん大切な三つのごと即ち幸福へのメッセージは「ありがとう」「すみません」「はい」とある本に書いてありました。同窓

感です。

作家として六〇年以上活躍された「曾野綾子」さんが「人間の分際」という著書の中に「人間には変えられない運命がある。」「生涯における幸福と不幸の量はたいてい同じ」と書いて苦しみあつてこそ人生だと言っておられます。また、ある大学の加齢医学研究所の教授が「脳の最高の栄養素は『知的好奇心』」と言っておられますが、脳は何があつても諦めないそうです。人と一緒に過ごすだけで脳の前頭葉はフル活動し趣味をもったり、カラオケで歌っている時、脳の中にはすごいことが起きているらしいです。

私が入寮していた施設でも毎日、三〇分間位、尺八の演奏でいろいろな唄を歌いました。大きな口を開いて一生懸命歌えば汗ばむほどです。たしかに腹筋が強くなり体調がよくなることを経験いたしました。

とりとめもないことを書きましたが、ご高齢の「日野原重明先生」が言われるように「自分の体の責任をとるのは自分自身です。」焦らず、おおらかな気持ちで毎日を過していくことを願っています。

「尺八の音色にあわせて歌う唄
腹筋強め体調よろし」



卒業生は現在いま

梅光で得た

今を生きる糧

江後 紀久子
(高34・大18語3)



米国での一年留学から帰国し、慌ただしく就職活動をして入社したNTTでの勤務も三十年近く、ベテランと言われる世代になってまいりました。女性も働き方が選べる時代、より面白い仕事に関わることを求めて、広島・大阪等との転勤を繰り返して、昨年からは九州でマネジメントに携わっております。

います。英米語学科在籍中、私は突然の病により車椅子での生活を送ることになりました。当初、検査入院のつもりが、目覚めた時には下半身が動かさず、この受け入れ難い現実にも苦しむ不安ばかりが募る日々が続きました。しかし、そのような中でも高校の礼拝で繰り返し聴いた聖書の「困難な時には神様が逃れる道も備えて下さる。」「神にあつては私達の受ける試練は決して無駄にならない。」などの教えが、活きた言葉になって思い出されてきました。寝たきりだったベッドから身を起し、自分の手に熱いお湯呑みを持つてお茶を飲むことの幸せや、水道の蛇口から流れる水の両手にかかる圧力など、日々、当たり前だと思ってきたことが、生かされている実感となり、感謝をもって進んでいく勇氣に繋がりました。

リハビリを兼ねた入院中、大学の諸先生方が私の車椅子での復学のために設備を整える等のご尽力を下さいました。さらに一度は諦めかけた米国留学への希望を与えて下さったことは、今日の私が自信を持って社会で生き抜く力のもととなりました。今こそバリアフリー社会は浸透してきていますが、当時の梅光の対応は学生の将来を見据えた先進的なものであったと思います。また留学中、ルー

百年続くということ

青木 絵麻
(高44M・短英29)

私は今、油を売っております。東京・浅草橋で明治三年から続く油専門店が仕事場です。ひと昔前、油は悪い側面ばかり取り上げられがちでした。実は身体や脳にとっても大切で大きな影響を与えること、油は健康への鍵でもあり、料理を美味しくする調味料でもあると理解されはじめ、最近では多くのお客様が真剣に油を選んで買われるようになりました。ここ数年急激に人気が出ているえごま油などありますが、正しい使い方や情報もお伝えすべく、日々取材対応や各メディア、ネットを通じて活動しております。二月には二冊目のレシピ本、からだを活性化させる魔法の油!「オメガ3」レシピを講談社より出版させていただきました。お陰様で、油のセミナーや国内の原料生産地でのご縁や繋がりが増え、大変充実した毎日を送っております。ネットショップを通じて、同級生や恩師からもご注文いただくこともあり、大変嬉しく思います。

ごし、短大は英文科、その後は美術、骨董業界を経てまさか油売りになるとは思っておりませんでした。ただ考えてみれば意外な共通点もあるように思います。百年、千年続く歴史や伝統、時代を経ても残るものの価値、美しさへの尊敬の念でしょうか。学生の頃はそう意識しておりませんでした。古く時代の音楽であれ、現代の技術を持ってしてもなかなか新しい芸術品、また脈々と伝わる伝統や教えそのものをとても貴重に思います。ただ経営や学問においては人も技術もめまぐるしく変わる世の中。歴史やしきたりを守るだけでは生き残っていけないのも事実で、大切な精神を失うことなく柔軟に変革することも重要なのではないかと思っております。

仕事一筋で年に一度も帰郷しない若い頃もありましたが、子供を持ち働き方を変えたことで、より下関が近くなりました。あの緑と海の見えた母校、蝋燭の灯りで歌った賛美歌やハレルヤコーラス、小さなピアノ練習室、静謐な図書館での時間やステンドグラスから漏れる光を懐かしく想い起こします。少子化や様々な問題の中、歴史と伝統を絶やさないようご尽力されている先生方に感謝申し上げます。同窓生として遅ればせながら



がら何かお役に立てればと嬉しく
思っております。

余談ですが東京の病院にて出産
した際、同じクラスだった友人が
まさかの同室で、卒業後二十年ぶ
りの再会に声を上げました。

無計画、偶然人生に ムダなし、悔いなし

三 島 永 子
(短英5)

このところあらためて思うこと
です。わたしの人生は、無計画
で偶然に乗った人生ですが、『人
生には無駄はない』ということが
はつきりしていますので、悔いも
ありません。

一応、気にかけてきたのは、毎
日を一生懸命生きて(あえて頑
張って、とはいいませんが)いい
仕事をして、いい人間関係をつく
りあげて、人様に対しては思いや
りと優しさをもって接していく。
「世のため、人のため」になるこ
とを、すること。

わたしたちは、人間。人間には、
欠点がたくさんあるのは、みなさ
ん、ご存知。だから、いい人間に
なるためには、努力が必要となり
ます。わたしの人生は、すでに終
盤にはいっているのは確かな事実

です。あと10年、20年くらいの間
にどこまでできるか・・・チャ
レンジは続きます。

わたしは長い間、日米がらみの
スポーツイベントのオーガナイ
ザーをしてきました。(アメリカ
ンフットボール、米国女子プロゴ
ルフ、日米学生ゴルフなどなど)

決して町内会サイズのイベントで
はありません。テレビ局がはいる
サイズといったらわかりやすいで
しょうか。イベントによっては、
一回のイベントをするのに、一年
以上の準備がするようなサイズの
ものでした。でも、わたし自身は
決してスポーツは好きではないの
です。スタートは、偶然のような
ものでした。スポーツそのものに
は、さほど興味もなかったのに
も関わらず、そういう業界に長年
どっぷり。ビジネスは面白いから
です。米国でも、スポーツ業界は
オトコ世界ですが、日本人、しか
も女性のわたしが思う様に動くこ
とができたというのは、業界にい
るいろいろな女性たちの陰の応援
があったからです。

そうこうしているうちに、映
画の仕事が舞い込むようになり、
ハリウッドスターたちのインタ
ビューもそのひとつです。そうで
す、プロのインタビュアです。プ
ロアスリートたち、国宝級役者、
邦楽のお家元、実業家、芸能人の

インタビュアです。これも偶然か
らのスタートでした。
その頃の毎日の忙しさは、言葉
では表現できないほどでした。イ
ベント前の睡眠時間は3時間は当
たり前。その頃の最大の願いは「妻
が欲しい」(苦笑)。
ところが、夫、義父、実父、17
年いっしょに生活をした愛犬が
1年半以内に亡くなってしまった
こともあり、わたしは倒れ込んで
しまったのです。精神的なショッ
クのせいで左目は3度も失明しま
した。医者たちからは、健康を取
り戻せるかどうかの保障はできな
い、と言われ「死」も覚悟してい
ました。そして、4年半の静養期
間を経て、わたしは生き返ったと
いうより、神様に活かされたので
す。神様が、わたしを活かしてく
ださった目的は何なのだろうか。

ちょうどその頃、カトリック系
の病院で、カウンセラーのトレー
ニングがあることを知りました。
クラスに出席するようになって思
いました。
「ウワ、面白い!もつと勉強し
たい。」
それから学校に行つて心理学を勉
強しました。これまた偶然です。
知らないことがたくさんあり、一
生のうちで一番気をいれて勉強し
たいと思います。大変でしたが、人
間の心の状態を分析するのは実に
楽しいのです。

わたしはスポーツイベント、芸
能関係の仕事、心理学と、全ての
スタートが偶然だったのです。と
ころが、現在しているカウンセ
リングの世界でも、スポーツイベ
ントで身につけたこと、いろいろ
なかがたをインタビュアしてき
た経験がしっかり役にたっていま
す。人生に無駄はないんだわ。
これからも、このところを活
かして「世のため、人のため」に
生きていきます。これがわたしの
ライフワークです。

イエス様に導かれて・

波多江(林) 登喜子
(高28)

梅光女学院高校二年生の二月四
日、倫理社会の授業中に『自分の
ためだけではなく、他の人のため
にも生きなさい。』という聖書の
御言葉が私の心に示されました。
その時は、これが聖書の一節だと
は知りませんでした。ピリピ人へ
の手紙二章四節の御言葉です。ま
だ、イエス様を私の救い主と信じ
ていない時でしたが、「医師とし
て人々のためにも生きなさい。」
との召しでした。当時も医学部は
最難関の学部でしたので、のんび

り過ごしていた文系の私にとって
「医学部志望」への百八十度の進
路変更は、正に自分の人生をかけ
る無茶苦茶なチャレンジでした。
でも、イエス様から逃げ回る事に
疲れ、自分をイエス様に投げ出し
た途端、心に勇気と信念が与えら
れました。その後、イエス様を私
の救い主として心にお招きしたの
は六月です。

今、私は福岡県志免町にある栄
光会亀山クリニックの院長兼併設
の老人保健施設の管理者として診
療に従事しています。栄光会はキ
リストの愛を基として医療、介護
を通して地域の皆様にお仕えする
ことを旨としています。私は、ク
リニックの院長として一般内科の
外来診察や訪問診療、施設利用者
の健康管理などを行っています。

一七歳で出会って以来、イエス
様は、私の人生の大きな節目だけ
でなく、日常生活の細々とした事
にも御言葉をもって道を示し続け
て下さっています。イエス様は、
いつも私のすぐ側に居て下さり共
に歩んで下さっているのとでも
心強く感謝に堪えません。
現在、私にはイエス様から委ね
られた使命が三つあります。医
師として病める方々にお仕えする
事。「絵本の読み聞かせ」を通し
て福音を伝える事。東北震災の
支援です。「読み聞かせ」は、毎週、



介護施設や学校で行っています。震災支援は、3・11後に頂いた『祈る人たちは、決して祈りをやめてはならない。』(イザヤ書六二章五〜八節)の御言葉に促され、宮城県牡鹿半島の応援を続けています。今年三月までに一四回現地ボランティアに行きました。また、牡鹿の海の幸や浜の方の手芸品を販売して募金を行っています。理解されない時もありましたが、イエス様に促されて始まった事ですから、主ご自身からお助けを頂き続けています。

私は、イエス様と出会った梅光生の時と変わらず、心身共に弱くくじけ易い者です。でも、イエス様が、こんな小さな私に使命と力



左…栄光病院外来待合室にて



右…2015年夏 アナゴ漁のお手伝い 牡鹿半島にて

同窓生の中で最高齢の草光澄子様(梅10)が、2015年10月13日108歳で天に召されました。70歳の時「遠望」に寄せられた、梅光ライフの賜物と、80歳になられた時、同窓会からお祝いにクリスマスプレゼントをお贈りしました。その時いただいた礼状と、ご息のお手紙を掲載いたします。平安を祈りおしのびくださいますように。

梅光ライフの賜物
草光澄子(梅光10、永井)

学院を去ってからもう半世紀余りになるのに、あの四季折々の花々、クローバーの薫りにみちたなつかしいキャンパスでの五年間

草光澄子様 108歳で召天

二〇一六年四月

を与えて下さり、とてもとても幸せな面白い人生を歩んでいます。そして、人生最期の時にイエス様と顔と顔を合わせてお会いする大きな楽しみが待っているかと思うと、もう、それだけで叫び出したくなる程に嬉しくなります。一人でも多くの方が、このイエス様と共に歩まれますようにお祈りしています。

のたのしい生活があざやかに回想される。人生で一番大切な時期を、あの楽園のような山上の城で過ごせたことは、ほんとうに幸せであった。思い出を記すには、あれもこれもと、戸惑うほどですが、その中から私の人生に深く関わりをもつことになった二、三のことに絞って少し述べてみよう。

先ず、学院はキリスト教精神を、基盤とする教育をするところであるが、広津藤吉院長をはじめ諸先生方はあらゆる機会に生きた信仰の姿を示してくださいました。特別な配慮がなされ、その中には、学院に迎えた先輩方からの信仰の証しや講演を聞く機会を作ったり、山上には静かな祈りの場としてのあずまやを設けたり、また寮生は全員日曜礼拝に出席するなどがあった。時にはそれが形式に流れるのではなく、などの感想を抱くこともあったが、すべては益となつて、多くの生徒たちが信仰に導かれたのだ。また数々のギフト(賜物)を備えられた先生方と、生徒との自由な人格交流も深く、その中から物事を真実な新鮮な視点で捉え追求することを学び、特に信仰的な価値観の尊厳さを示された。今日なお私が教会生活の中におかれているのは、こうした梅光ライフの賜物であると感謝している。

次に梅光の英語教育について。

上品なミス・ビゲローによる、たのしい、わくわくするような、リズムカルな英語レッスン。どうしてよいのかさっぱり分からぬまま、ただ先生の英語の反復応答の連続。一、二か月たつうちに、次第にそれらしい応答がいくぶんできるとなつたのではなかったか。このように、聞く、話すという、外国語教育の最も重要な入門過程を、外人教師から少数のクラスで指導していただいた。上級になると、上野シゲ、広津君の両先生による、読み、書き、また文学的解釈などが加わり、その他英語寸劇、歌、詞の暗誦など、多角的な充実した指導がなされたのだ。後に自分が教える立場に立つた時、梅光での英語教育がどのようになつたものであつたかが理解できた。

第三に音楽教育について。優秀な先生方によって、高度な指導がなされた。器楽の練習用個室が設けられていたのには感激したものだ。良い環境の中でいていかに各個人の才能を引き出していただいていたのだ。また器楽のグループの者は、礼拝での讃美歌奏楽の責任を持ち、校内音楽会には生徒の企画を取り入れて、また大小の集會にコーラスグループも活躍するなど、音楽は学院生活に深いかかわりを持つてい

て、その中で生きた音楽の心を会得させていただいたことを回想している。

神のみ旨により、過去百十余年の卓越した教育の歴史を記されて来た梅光女学院が、明日に向かって、さらに尊い教育の城として輝き続けることを心から願っています。

梅光女学院遠望より

礼状

主の恵み豊にみな様の上にあれ！といのります。

何となつかしい梅光時代のクリスマス、真夜中の二時ごろ寮生全部がパッチリ目を開けてイヴ礼拝続いてクリスマスプレゼント、そして上級生はキャロリングとあこの胸はずませた思いはいつまでも鮮かに心に描かれています。すでに六十年前のことなのに。

そして只今またビックリ！何か最新版の御本を開く思いで包を開いてみますと、そうではなく、これまた思いもかけないプレゼント、どうして？多くの卒業に一人ひとり贈っていただいでいるのでしょうか。それに私の好物の上品な阿白雪です。ほんとうに心から御礼申しあげます。私は久しくお訪ねしていませんので、すぐにもなつかしい母校のクリスマスに参加したいほどの思いです。いつかひょっこりお訪ねします。どうぞその時はよろしくお願ひいた



します。

心から感謝をこめて

「梅光」19号より再掲

立冬もすぎて、日増しに寒さを感じるこの頃ですが、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

実は、先月十月十三日に、母澄子が百八歳の天寿を全うして自宅にて家族に見守られながら永眠いたしました。「老衰」との診断でした。

百六歳の誕生日までは元気に過ごしていましたが、その後の大腿骨骨折以降、車いすからベッド中心の生活となり、徐々に身体機能が弱ってまいりました。それでも訪問診療や訪問看護のサービスを受けながら、意識も比較的しっかりと一層に過ごしてまいりました。週末にやってくるひ孫たちを見ると目を細めて表情が変わる様子が思い出されます。

十月十六日に日本バプテスト相模中央教会にて葬儀を行い、母の希望通り親族と教会員の方々に見守られて、安らかに天に送ることができました。

これまで長年にわたってご厚情を賜り、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

平成二十七年十一月十二日
(次男) 草光純二

この度は、ご丁寧な、母草光澄子のために、過分な御厚志を賜り誠にありがとうございました。

明治から平成に至る母の長い生涯では、様々な苦勞もあったことかと思いますが、篤い信仰心に支えられて、過去を振り返らず、いつも前向きに生きてきたと思います。大和市で最高齢と言われる百八歳まで、充実した生涯を送ることが出来て幸せであったと感じています。頂いた御厚志は、母の関わっていた教会と福祉施設への寄付の一部とさせていただきますと存じます。ありがとうございました。

貴学院のますますの御発展をお祈り申し上げます。

セシル・コール第40回定期演奏会を終えて

大日 永見(宮坂) 昌代

11月29日梅光ステージエスホールで第40回定期演奏会を行いました。2年前に創部40周年記念演奏会では、大学セシル・コールと短大コール・クヴェレの卒業生が集まり「校歌」と「メサイア」抜粋を声高らかに歌いました。その折

に「花の香を歌わずして梅光の演奏は終わりではないですね」と中山先生がおっしゃられ、今回の演奏会で歌いました。

私達が「花の香」と呼んでいる女声合唱曲「花の香を追って」は、セシルとクヴェレの(ジョイントコンサート10周年)を祈念して委嘱した作品で、15、20、25周年と節目の年に演奏している大切な曲です。

ピアノの田村優子先生は、初演からずっと変わらず伴奏をしていただいているので、中山先生から「初演時から変わらない梅光精神(歌詞に「光の子」があります)と人生経験を積み洗練された今のあなたたちのハーモニーを作りましょう」と練習を進められると、

そのタイミングにぴったりとあてはまり、練習中から嬉しい時間を過ごすことができました。

練習は東京、福岡、下関で行うために各地の卒業生が手配し、中山先生をお迎えしていました。先生のお元氣さと音楽に対するエネルギーに、卒業生は圧倒されるばかりでした。

先生は、昭和46年(平成25年)までの42年間の長い間、在職されました。退官後もセシル・コールやハンドベル部の指導にボランティアとして関わっていらつしやいます。

演奏会は終わりましたが、(梅光セシル&クヴェレOG会)として、「校歌」「花の香を追って」「ハレルヤコーラス」は今後も歌い続けます。

中山敦先生、関東上陸のこと

(セシル・コール17期生)

廣田真理香(高45・短英30)

「梅光のための」花の香を追ってを演奏しないでは終われない。

そして MOZART「戴冠ミサ」で「退官」、

セシル & クヴェレ JOINT CONCERT 40回記念で終わりたい。」と、中山先生がおっしゃった時、

これで、「フイナレ」なのだと感じました。クヴェレは短大が閉学、セシルは2013年に40周年記念演奏会を終えていましたが、現役生は1名。

しかし私達OGや仲間のOBはこのJOINT 40回を嬉しい機会と集まりました。

2013年に引き続き、東京に中山先生をお招きして、2015年7月関東練習を開催することができました。

私達セシル・コールOG5名、短大コール・クヴェレOG3名、九州工業大学メンネル・コールOB5名と前回より減員しましたが、参加してくださった方も断念された方も、様々な事情や参加の形は違っても、思いは共有してくださっていると感謝しております。

会場は日本基督教団東京池袋教会、礼拝堂。伴奏は、2013年にはオペラ歌手の後藤ちしをさんに三日間お付き合いただきました。今回は急遽、小林浩子先生に助けて頂きました。私がセシル入部後初めて歌ったロッシニ「信仰・希望・愛」日本版楽譜を訳編された富岡正男先生のお仲間です。しゃやいます。様々な嬉しい出会いがあり、美しい、幸せな音楽がありました。感謝です。

またかつて、JOINT CONCERT 30周年に向けて、セシル李美智先輩やクヴェレ永松良子先輩(関東





練習にも九州から参加し、西田聖子先輩らのご尽力によって、両OG会と現役生が奮闘。その布石があったからこそ、池袋での関東練習は実現しました。お一人一人に心より感謝です。

セシル自慢の素敵な二期生の先輩方始め、音楽を愛する気持ちで集まる方ばかり。学生時代より歌い続けて益々精進なさっている方、音楽から遠ざかっていた方など、年齢や歌唱力などその時々でばらばらな集まりですが、歌い始めれば、年季の入った若々しさにあふれ……。学生時代には出会わなかったOG、OBが、世代や団体を超えて一丸となり、中山先生の容赦ない真摯なご指導に集中し、学生時代を体現しているような充実でした。頑として、音楽一徹だった中山先生の変わらない、厳しいご指導が、甘露のようにやみつきに……。若い時に叱られすぎて癖になってしまっているのでしょうか？……。音楽の豊かさを知った喜び、音楽と仲間に出会えた喜びは、歳を重ねても、いつまでも増幅し続けています。

「光の子らしく歩みなさい」という母校のメッセージそのものとなって、私達を今も支えてくれています。つたない学生の演奏会を覚えて応援してくださった先生方のあたたかな眼差しに育まれた、

幸福な学生時代でした。思い出すこの時、かつてよりも今、母校とつながっているようなあたたかさが胸にあります。優しく美しい校歌の歌詞をかみしめています。その学び舎から遠く離れた関東練習は、中山先生と、学生時代の幸せな時間に再会できる、梅光の

ソフトボールOB会

第31回ソフトボール部OB会

古川(吉沢) 知恵(高38)

平成27年10月3日(土)恒例のソフト部OB会が、梅光学院大学同窓会室にて開かれました。遠方



音楽が流れていました。中山先生は、2015年7月、台風に先立ち関東へ上陸。大変な勢力を保ち、再会できる音楽がこれからも続くのかと思ってしまうほどの情熱の渦に巻き込まれ呆然とする私達を残して、懐かしい関門の青空の下へ帰っていかれました。

からの方、初めて参加の方もあり総勢21名の賑やかな会となりました。

食事会、近況を兼ねた自己紹介を終えた後は、高38坂元さん(旧姓・穴吹さん)が講師を引き受けてくださり先輩、後輩みなさんで時間を忘れて楽しくクッキーハウス作りを楽しみました。それぞれ個性的な素敵な作品に仕上がりました。

今年も例年通り、10月の第一土曜日(10月1日)にOB会を予定しております。少ない予算で続けておりますのでご案内が不十分になっております。この同窓会誌を見て是非ご連絡、ご参加ください。今年度当番幹事

村井(清川)由美子(高38)
TEL 083-635-5862
平成27年度参加者()は旧姓
高5 平良(平良) 美代
高7 今津(今津) 敏子

- 高17 梶間(大迫) 真寿美
- 高17 小原(小原) 政子
- 高24 上野(長谷川) みち子
- 高31 倉光(岡崎) 真理子
- 高32 吉岡(大草) 文
- 高32 剣持(中野) あけみ
- 高33 淵瀬(船越) 佳子
- 高33 山本(福田) 美枝
- 高36 浦崎(松井) 真由美
- 高36 畑野(武内) 靖恵
- 高37 大田(吉津) 真理
- 高38 馬場(宝田) 泰子
- 高38 古川(吉沢) 知恵
- 高39 齊藤(松本) 知子
- 高40 坂元(穴吹) 珠代
- 高40 村井(清川) 由美子
- 高40 渡辺(長田) 雅江
- 高40 栗(藤井) 靖子
- 高40 黒瀬(黒瀬) 佳代

支部だより

東京支部会

平成27年度東京支部総会及び懇親会は、5月19日(火)六本木ヒルズクラブにて行われました。

当日は、前日からの雨も朝には上がり、六本木ヒルズ51階からの眺めは、少し雲がりましたが、関東平野が遠くまで見渡され、素晴らしい眺望の中始まりました。

約100名の同窓生が集い、下関からは中野学院長、梶間元同窓会長、浜谷同窓会長、豊田学院資料室長にご出席いただきました。飯沼支部長が挨拶された後、礼拝は豊田室長にお願いしました。

中野学院長には、懐かしい学院の様子をお話いただき、続いて、最初のお楽しみ、梶間元同窓会長の講演が始まりました。講演前、飯沼支部長が1メートルの物差しを持ってサブライズ、私の同級生3人のスカート丈チェックが始まりました。「少し短いですね」「あなたはこちらのほうがいいですね」と梶間先生も乗ってください、私たちは、一瞬高校生時代に戻った気持ちで、大笑いしました。続いて、たくさんの方の写真とともに梶間先生のご幼少時代から今に至るまでのお話を伺いました。





もうひとつのお楽しみは、同窓生清水良子さんによるミニコンサートと校歌の歌唱指導。清水さんの透き通る歌声には、私の心も洗われる気持ちになり、うっとりとして聴き入りました。



懐かしい校歌は、清水さんのわかりやすい歌唱指導の成果が出て、全員すばらしい歌声で斉唱し、楽しい同窓会の幕を閉じました。

本年度(平成28年)の総会・懇親会は、5月18日(水)、ホテルモントレ横浜にて開催いたしました。詳しくは東京支部のホームページ

<http://baiko-tokyo.com/?p=3069> をご覧ください。
酒井(道脇)るい子(高28/短英13)

東京支部事務局

平成27年度 福岡支部昼食会報告

平成27年9月19日、初めての土曜日開催となりました。福岡支部昼食会は、36名という御出席を賜り、盛大にそして和やかな会となりました。

皆様御期待の岡田先生のセミナー「久しぶりに『万葉集』」はかつての公開講座を彷彿とさせる雰囲気会場を一新に変えて下さり、特に日文の卒業生にとりましてはそれは懐かしい授業となりました。

食事後の近況報告を兼ねた挨拶では、久しぶりに学生時代に戻れた等々との感想をいただき、また

熱心にメモをとられる御姉様方のお姿にいつまでも変らない梅光生の学問に真摯に取り組む姿勢、不変の梅光スピリットを再確認した次第です。

中野先生、樋口先生、浜谷先生にもそれぞれのお立場で梅光に対する熱き思いのこもったお言葉をいただきました。特に今回初めて御出席いただきました樋口学長は大阪出張より駆けつけて下さり、同窓生という等しい思いで時を共にさせていただけましたことはこの上ない喜びとなりました。

今年も下記日程にて皆様とお会いできますことを楽しみにお待ちしております。申し上げております。

支部復活以来、名簿順に御案内を差し上げておりますが、諸事情によりまだお手元に届いてない方もおられます。案内の有無にかかわらず、近郊の方々どうぞお誘い合せの上御出席下さいませ。

平成28年度

福岡支部昼食会のご案内

御好評いただきましたミニ講演、今年は吉津先生がお話して下さいます!

日時 9月10日(土)

受付12:40(集合写真撮影)



開始13:00(15時終了予定)
会場 ソラリア西鉄ホテル
会費 5,000円
講演 吉津成久先生
小泉八雲の「敗者への挽歌」
—愛蘭と出雲と下関をつなぐ—

出席予定の先生方
中野新治院長、樋口紀子学
長、平良美代名誉会長、片
山宣子新会長、浜谷静枝・
梶間眞壽美前会長 他

申込締切 9月1日(木)

連絡先 〒811-1365
福岡市南区皿山4-9-4
E-mail etsuko-i-believe_0402@docomone.jp
打越 悦子(短日13)

北九州支部昼食会

2015年度の支部昼食会は梅光学院院長中野先生、大学学長樋口先生、同窓会会長浜谷様、副会長磯谷様をお迎えし、下関在住の同窓生も加わり総勢24名で和やかなひと時を過ごしました。母校梅光の厳しい現状や将来の見通しなどもお聞きして、北九州支部会も母校を懐かしむだけではなく梅光の発展に寄与したいと心を一つに致しました。

会食後希望者は丸山校舎を訪問したところ、新校長近藤先生のお出迎えを受け、50年前の思い出が残る講堂や正面玄関、渡り廊下又、男女共学になって建て替わったモダンな新校舎を感慨深く見学致しました。梅光の卒業生で良かったと心底感謝に満たされた半日でした。

2016年度梅光学院同窓会北九州支部昼食会

日時 7月12日(火)

12時~14時(受付11時半)

会場 門司港ホテル

TEL 093-321-1111



会費 4000円
申し込み 森田朋子

TEL & FAX 093-511-5630

E-mail mumorita@rapid.ocn.ne.jp

締め切り 7月5日

どうぞ北九州市以外の方も誘
い合わせの上ご参加下さい。尚、
昼食会後、希望者は丸山校舎の見
学も予定しています。

同期会

高12

ミニ同期会

東京池袋サンシャイン60にて

高12 大澤(高橋)宣子

平成27年11月9日(月)地上240
M60階の何と！59階於天空のレス
トラン、星のなる木にて半世
紀余前に戻った7人での無礼講：
ハッピーな食事会を行いました。

アツと言う間に還暦が過ぎ古希
も同じくアツと終わっておりま
す。太く長く美しく(?)のいい
人生だったよねとお互いを褒め合
い大変楽しいひと時でした。また
向こう何十年(…?)先までも長
く長く今現在より以上に元気



でありたいね！と一致団結、生
存確認を密に取る約束をしま
した。歩んできた人生に年齢が
重なり十人十色のお互いの変貌
を認め合い、にっこり笑って再
会を約束し散会しました。高揚
した気分のまま夕闇染まる高層
ビルの摩天楼を背に家路につき
幸せな感謝日でした。有難うご
ざいました。

この度のミニ同期会は急遽私
の上京に合わせて集って下さっ
た方達です。熱海頌子(旧草野)、
鮎貝和子(旧野間)、伊川日出子
(旧住本)、平井洋子(旧弘中)、
宮本佑子(旧山崎)、清水智子
(旧西川)さん(当時刻欠席とし
たが後程お会いしました)です。
皆さんは大都会人に成りきって

いらっしやいますが私の下関弁
が懐かしいと褒めて(?)頂き
田舎っぺ丸出しも捨てたもので
は無いのかな：なんて面映ゆく
もありまたそれが嬉しくていい
旅でした。

光の子らしく歩きなさいの教
えのもと、歴史と伝統を誇る梅
光で学んだ者同士あの素晴らし
いハレルヤの響き、又礼拝時の
敬虔な祈りを経験した者同士の
絆は改めて素晴らしいものでし
た。

○昨年開学100周年祝宴行事が
あった事

○丸山校舎に開学100年記念顕彰
碑が建立された事

○毎年クリスマス礼拝の素晴
らしい事

○中・高の男子入学は当り前(大
学はしかりです)になってい
る事

○東駅の大学はインターナショ
ナルになつている事

等々まだまだ

下関⇨梅光発信の満載情報を抱
えて上京するつもりです。
新しく変わって行く我が梅光
と共に、限りある人生をポジテ
ィブに過ごして行きたいものだ
しみじみと感じ入っております。
皆さんまたお会い出来る日ま
でどうぞお元気で…。

高26

還暦同期会

高26 本保(下瀬)治代

平成二十七年十月三日、春帆
楼にて「還暦同期会」を開催し
ました。卒業して早や四十二年。
当時の担任の先生方は、もはや
ご臨席がかなわず、三島先生と
付き添いをお願いしました奥様、
村田先生と同期生四十四人の合
計四十七人の会となりました。

卒業して初めてお会いする方、
またいつも参加して下さいとい
る方、それぞれにお元気で再会で
きましたことを大変嬉しく思い
ます。一見学生時代と変らない
ように思いますが、やはり皆様
年輪を重ねられ、昔の乙女も今
やりっぱなしニアの仲間入りで
す。先生方も昔は若々しくスマー
トで熱血感溢れる青年教師でし
たが、今は貫禄がつき、シニア
世代の大先輩となられています。

そのシニア大先輩の三島先生の
乾杯で宴をスタートして二時間
半の間、席を自由に移動したり
写真を撮ったりと、皆様それぞ
れに昔を懐かしみ楽しみ、大変
賑やかにいい時間を過ごされま
した。余中のゲームでは藤里まゆ
み(旧・藤永)さんが梅光に関

する問題を出して下さいました。
当時と今の校舎の違い等を折り
込みながらの質問に、意外と覚
えていないこと、又改めて思い
出すことなどが沢山あり、ゲー
ムとはいえ有意義な時間でした。
宴もたけなわ、そろそろ終りに近
づき懐かしいあの頃の歌を歌う
ことにしました。梅光と云えば、
そうですハレルヤコーラスです。
久し振りのハレルヤですがさす
が元梅光生、身に付いています
ね。自然と各パートに分かれて、
みごとにみごとに歌いあげまし





た。引き続き校歌を歌い終えると拍手がわき起こり、とても感動した瞬間でした。余韻を残したままの閉会でしたが、多くの方が二次会に参加され、まだまだ話し足りないことを話すおしゃべりの輪がいくつもでき、とても楽しく過しました。三次会、四次会と宴が続き、皆様本当に名残惜しそうに帰路に就かれていました。

卒業はゴールではなく、スタートだと言います。四十二年の間には楽しい事・素敵な事・苦しい事・悲しい事・紆余曲折多くの経験をされてきたと思います。しかしこの同期会に集うことができていたという事は、それなりにいい人生を重ねて来れたからだと思えます。私達幹事も恵まれた人生を歩んで来れたからこそ、この様なお世話をさせていただくことができているのだと感謝しています。

今回は還暦という節目の同期会でしたが、四十二年の空白を埋めるべくあの頃の輝きに溢れた乙女に戻り、本当に有意義に過ごすことができましたと思います。このひとときの想い出がこれから先の人生を歩むエネルギーのひとつの糧にしていたことができれば幸いです。次回も一人でも多くの方の御参加を願っています。

総会報告

村谷 眞理 (高39)

新緑のまぶしい5月14日土曜日 シーモールパレスエメラルドの間で同窓会総会が開かれました。壇上には同窓会から贈呈された校旗が飾られており、学院の状況を心配された方々280名のご参加となりました。遠方より東京支部の方々、中野新治学院長、初めてのご参加となる本間政雄理事長もご出席されました。



70年間に亘り梅光の発展に尽力され、梅光は小さな私学だけけれど志学でなければと生前おっしゃって



ておられ、私達はその意志を受け継いでいかないといけないと確信しています。ふたつめは学院の現状において教育に本気で対峙して下さる指導者がいなく改革も必要だが本来の梅光の教育が見失われており、信頼関係をとりもどしたい、経営も大切だが、人や本との出合いで知識を重ね、人は成長していく。同窓生は非難するだけでなく支援しなければいけない」と言われ、はっとする思いでした。去年の総会ではお元気に講演されていた佐藤先生のことを思うと亡くなられたことが信じられませ

現状において事実無根の風評が多く含まれ本当の意味でのキリスト教の教育を続けることは難しく必要な改革であると自負している」とされ、本間理事長は、「改革についての説明が不十分だった。地方の小さな私学の建て直しは未経験だが、まず大学の改革から始め、定員超えの学生が集まり成果は現れている。梅光は中期計画がなく、苦渋の決断で中高教職員も希望退職を募るなどせざるを得なかった。改革に具体的な提案を待っている」といわれ、学院をよくしていこうという気持ちは私たちと同じだということを感じています。

ベルアップをのぞむ。改革は必要だが世の中に役立つ人作りを受け継いでいく教育が必要であり、生徒たちの困っていることを理事長、学院長に伝えていきたい。会長就任を迷っていたが、強いられる恩寵もあることを知った」と言われ、同窓生一丸となり新会長をお支えし協力していきたいと思えます。浜谷会長5年間、学院のために本当にありがとうございました。

浜谷会長より、「提案として同窓会の運営委員はすべてボランティアで行っていたが、今後は交通費、時給を支払うよう事務費を年間50万円から160万円へ変更、承諾された。中高音楽科で使用のピアノが老朽化のため、グラランドピアノノ寄贈を募っている。下関、北九州在住の方におねがいしたい。申し出がない場合は小型ピアノ200万円くらいのもを購入寄贈予定である」と言われ承認されました。同窓会新会長として、片山宣子氏が選任され、中学から大学まで当学院国語教員として長年活躍されました。ご挨拶では「梅光の状況に心痛し、大学のV字回復はすばらしいが、人数だけでなくレ



懇親会は卒業生による演奏会が行われ、夏川由紀乃さんの素敵なピアノ独奏、山本佳代子さん伴奏による童謡スウインズハーフ、上永靖代さん、小役丸佐知子さんによる歌唱、心あられる時間でした。最後は恒例の全員によるハ



レルヤコーラスでお開きとなりました。今年度は幹事のできる方が少なく大変困りましたが、後輩の方々にもご協力いただきました。浜谷会長はじめ、先輩方いろいろな場面で助けていただき幹事一同本当に感謝しています。至らないことが多く恐縮するばかりでしたが、皆様多数のご参加ありがとうございました。



平成27年度会計報告及び平成28年度予算(案)

科 目	27年度予算	27年度決算	28年度予算案
取 入 の 部			
終身会費取崩し	3,208,000	4,183,919	6,124,000
繰 入 取 入			
繰 越 金		0	
入 会 費	450,000	410,000	608,000
会 費	2,000	0	2,000
受 取 利 息	60,000	37,637	136,000
施 設 利 用 料	20,000	2,000	20,000
運 営 費 取 入	3,000,000	1,796,000	3,000,000
雑 収 入	50,000	256,711	50,000
取 入 計	6,790,000	6,686,267	9,940,000
支 出 の 部			
事 務 費	500,000	364,682	1,600,000
旅 費	150,000	143,050	200,000
通 信 費	1,600,000	1,422,495	1,600,000
印 刷 費	3,500,000	1,911,790	3,500,000
行 事・集 会 費	800,000	213,194	800,000
交 際 慶 弔 費	100,000	516,024	100,000
雑 費	70,000	49,478	70,000
光 熱 水 費	70,000	67,554	70,000
寄 附 金	0	1,998,000	2,000,000
支 出 計	6,790,000	6,686,267	9,940,000
当年度収支差額	0	0	0

貸借対照表

平成28年3月31日

現 金	2,052,210	終 身 金 費	92,545,784
預 金	95,359,335	終身会費引当積立金	6,815,154
仮 払 金	660,788	仮 受 金	-1,288,605
	98,072,333		98,072,333

上記平成27年度決算及び貸借対照表の会計報告に関して帳簿・証憑書類等を監査致しました。記載事項は事実に基づいており適正であることを認めます。

同窓会監査人 今津敏子

* 2015年度(平成27年度)行事報告 2015年

- 4月7日 役員会
- 4月30日 会計監査 今津敏子(高7)
- 5月1日 役員会
- 5月10日 同窓会総会 山田宏記念ホール 13:00~16:30 (190名出席)
- I部 総会
- II部 佐藤泰正先生講演「梅光学院下関開学101年を

梅光学院同窓会2016(平成28)年度総会

2016年5月14日(土) 12時30分
於 シーモールパレス エメラルドの間

I. 総会(13:00~14:40)

- 司会: 森田 朋子 磯谷 由美
- ・礼 拝 奏 楽 山本 佳代子
- 讃美歌 312番
- 聖 書 コリントの信徒への手紙 I. 13章:4~7節
- 祈 禱 中川 泰子
- ・総会開会 司会進行 森田 朋子
- 会長挨拶 浜谷 静枝
- 理事長挨拶 本間 政雄
- 学院長挨拶 中野 新治
- ・議 事
- (1)報告 ①行事報告 中川 泰子
- ②会計報告 (2015年度決算) 中川 泰子
- ③会計監査報告 今津 敏子
- (2)提議 ①事務手当(事務費)予算化の件 浜谷 静枝
- ②高等学校音楽科ランドピアノ寄贈の件
- ③来年度総会議事予告
- a.200万円以上の寄付に関する総会承認の件
- b.同窓会各支部活動費補助の件
- (3)役員改選
- (4)新会長挨拶
- (5)2016年度予算審議 中川 泰子
- (6)協議事項 学校・同窓会についてご意見のある方との質疑 応答
- (7)当番幹事挨拶 寺山 志信
- ・全員で校歌

II. 懇親会(14:50~16:00)

司会 磯谷 由美

- ◎卒業生による演奏会(14:50~15:30)
- ◇ピアノ独奏 夏川由紀乃(高M科14回)
- ①ビショップ(夏川由紀乃編)/埴生の宿
- ②イ・ジサン(夏川由紀乃編)/愛あなたの為の祈り
- ③イ・カンサン(夏川由紀乃編)/空の国の童話
- ④アプレウ/ティコティコ・ノ・フバー
- ⑤ショパン/ノクターン第2番変ホ長調Op. 9-2
- ⑥ショパン/練習曲第12番ハ短調Op. 10-12
- ◇童謡スウィング・ハーフ
- 上永靖代(大学英米7回)
- 小役丸佐知子(高M科12回)
- *伴奏 山本佳代子(高M科12回)
- ①シャボン玉
- ②みかんの花咲く丘
- ③月
- ④花嫁人形(スウィングアレンジ)
- ⑤おぼろ月夜
- ⑥うみ
- ⑦もみじ(スウィングアレンジ)
- ⑧雪
- ⑨夕焼け小焼け
- ⑩ふるさと
- ♪全員でハレルヤ合唱(15:40~15:50)
- *指揮 澄川孝子(高23) *伴奏 田村優子(高27音)
- 閉会(16:00)



12月11日 80歳(高5)の方へ、クリスマスプレゼント・「梅光女学院遠望」一戦後編一・クリスマスカード発送 68名
81歳(高4)以上の方へ クリスマスカード 発送 720名

12月19日 大学クリスマス礼拝 コール梅光賛助出演

2016年

1月12日 役員会
1月14日 コール梅光 総会
1月20日 大学卒業準備会、新入会員同窓会入会式 10:00～スタージェスホール 176名
・卒業、入会記念品贈呈「梅光女学院遠望一戦後編一(中川、磯谷、浜谷出席)

1月23日 佐藤泰正先生追悼礼拝
2月2日 役員会
2月8～3月5日 「木暮実千代展」(於:大学博物館)
2月13日 「木暮実千代メモリアルデー」大学図書館ホール 古川薫、松永武、倉本昭先生トークショー
2月23日 中高礼拝時、校旗贈呈式 8:30～(中野学院長、片山、磯谷、浜谷出席)
2月29日 同窓会高校新入会員入会式 42名 山田宏記念ホール(中川、磯谷、浜谷出席)
3月1日 高校卒業式 10:00～(中川、磯谷、浜谷出席)
3月1日 役員会
3月12日 中学校卒業式 61名 10:00～(中川、磯谷、浜谷出席)
3月21日 大学・大学院学位記授与式(中川、磯谷、浜谷出席)

迎えて—この時代を生きる力は何か—
Ⅲ部 コール梅光・コーラス —全員でハレルヤー
Ⅳ部 茶話会(広津藤吉記念図書館)
5月18日 中高礼拝担当 岡野千代子
5月19日 東京支部総会 六本木ヒルズ森タワービル(中野学院院长、梶間先生、豊田、浜谷出席)
6月2日 役員会
6月12日 中高礼拝担当 浜谷静枝
6月19～21日 木暮実千代展(於:先人顕彰館) 講演 倉本 昭先生
6月23日 同窓会誌 47号発刊
7月4日 第15回梅光メモリアルデー
於:スタージェスホール
Ⅰ部 講演 講師 力丸徳子「今に繋げる思い」
Ⅱ部 コール梅光 合唱 フォーレ作曲 レクイエム(ピエ・イエス、アニユスディ、楽園にて)
7月7日 役員会
7月13日 北九州支部会 於:門司港ホテル(中野学院院长、樋口学長、磯谷、浜谷出席)
7月13日 中部支部OG会
9月1日 役員会
9月24日 秋季学位記授与式、新入会員入会式(浜谷出席)
10月6日 役員会
11月10日 役員会
12月1日 役員会
12月5日 コール梅光 クリスマス礼拝・チャリティコンサート —東日本震災復興を願って—

2015年度(2016年5月迄)お知らせのあったご逝去者名(47名)

御霊の上に、そしてご遺族の上に神様のお慰めのありますように。

旧職	佐藤 泰正	2015.11.25	高4	内田(山下)隆子	2015.8.10
旧職	仁田(仁田)モト子	2014.9.5	高5	長井(池田)晴子	2015.3.7
旧職	森 隆一	2016.5.14	高5	平(河村)美弥子	2015.10.14
旧職	渡辺 智子	2015.7.6	高7	西村 仁子	2016.2.24
旧職	田中 博臣	2015.2.8	高8	山田(田村)和恵	2015.12.1
旧職	向山 義彦	2015.9.17	高8	藤原(藤原)久美代	2015.3.
旧職	大津 親人	2015.11.6	高9	横田(大塚)サト子	2015.9.22
梅10	草光(永井)澄子	2015.10.13	高9	高原(古岡)和子	2015.11.18
梅24・旧職	生田 俊子	2015.11.18	高9	名郷(宮崎)勝子	2015.11.11
梅24	野口 見栄	2015.10.29	高10	小西るり子	2015.2.1
梅25・旧職	石川(山田)道子	2015.9.18	高10	岡野(西嶋)勝子	2015.6.12
梅26	木村八重子	2015.11.1	高16	田村千代子	2015.5.15
梅29	市丸(松尾)定子	201.9.5	高17	大久保(清水)純子	2009(2015.6.17受付)
梅30	河野(江村)良子	2015.12.17	高18	佐藤(河野)節子	2015.6.22
梅30	杉(杉)昭子	2015.5.18	高23	川崎(金林)英子	2015.8.19
梅31A	日下(上田)由紀子	2015.6.13	高29音	平田(窪田)みどり	2015.9.21
梅31B	浜崎(上野)幸子	2015.3.31	短日1	橋本(伊藤)邦子	2015.2.11
梅31B	橋本(橋本)千鶴子	2015.8.26	短英10	木田千代文	2014.4.11
梅33	中村(秋本)菊江	2014.6.24	短日21・高37	東(大下)和美	2015.12
梅33	中司(若槻)貞子	2015.4.22	大11日	阪本 裕美	(2015.7.14受付)
梅34	中原(中田)善子	2015.9.17	大14英	原田(土江)弘美	2015.3.12.
高2	井上(中村)広子	2016.04	大18英	辻尾 尚子	2009.10.28.
高3	奥村(大倉)満子	2015.6.22	会友	橋本(森)敏子	2015(2016.5.18受付)
高3	中川(坂部)芳子	2015.6.8			

高5	金川享子(大津)3	高1	川西政子(安心院)3	梅31A	日下由紀子(上田)3	旧職	菊地 昇 3	2015年度 運営費寄付者名 単位千円 2015.4.1～2016.3.31までの受付 ご支援を感謝します。
高5	北村勝代(大浜)3	高2	清 隆子(内海)3	梅31A	佐々木 順(川瀬)3	梅23	清水公子(伊藤)3	
高5	勝田ツタエ(金子)3	高2	児玉光恵(河村)3	梅31A	泉 カツエ(杉本)3	梅23	飯豊スミエ(国本)3	
高5	重中美蓉子(重中)9	高2	勝目良枝(住田)3	梅31A	森 麗子(森) 15	梅24	長谷川裕子(平山)3	
高5	富田芳子(島崎)3	高2	岡田佳津(原田)3	梅31B	久保田捨子(木下)3	梅25	石川道子(山田)3	
高5	勝岡光子(墨崎)3	高3	森 美代子(国本)3	梅31B	大谷御代子(寺田)10	梅26	小林玲子(大塚)3	
高5	平良美代(平良)100	高3	西田久寿世(日高)3	梅31B	阿部敬子(富田)3	梅27	俣野八重(青木)30	
高5	野田玲子(戸嶋)3	高3	安田美智子(平野)3	梅31B	中野静江 3	梅27	北森捨子(小山)3	
高5	緒方和子(広田)3	高3	仲谷仙子(松代)10	梅33	森岡恵子(和田)3	梅28	三河内恒野(山田)3	
高5	村上清子(山本)3	高4	中野實子(異儀田)3	梅34	貴船春美(野田)3	梅29	古賀達子(古賀)3	
高5	上田玲子(湯田)9	高4	長谷川佐和子(香野)3	梅34	福田百合子(山本)3	梅29	前田喜美子(増田)3	
高5	永露道子(横井)10	高4	山本重子(山本)3	梅35	吉村清子(三輪)3	梅29	村尾伊津子(村尾)3	
高6	植田愛子 3	高5	榎田真弓(有川)3	中1	佐野定子(森田)9	梅30	生嶋菊子 3	
高6	西田小夜子(後)3	高5	三代 緑(一色)3	中3	山崎子秀子(朝本)15	梅30	石井テル子(石井)3	
高6	上笹ノブ(柿元)6	高5	小川和子(稲田)3	中4	堀田道子(下村)9	梅30	菊池トヨ子(福永)3	
高6	江川英子(金田)6	高5	松井栄子(稲村)3	中7	白石充代(米谷)3	梅30	柴崎トキ子(松村)3	
						旧職	河田 修 3	
						旧職	吉川俊子(牧野)10	
						旧職	巻幡清子 3	
						旧職	木村昌子 3	
						旧職	斎藤直而 3	
						旧職	柴崎照夫 3	
						旧職	白沢千枝子 3	
						旧職	宮本幸治 3	
						旧職	堅田淳子 3	
						旧職	清末義和 3	
						旧職	岩本康子 3	



大14日 紺屋はるみ(徳永) 3
 大15日 大藪勢津子(富田) 3
 大15英 田中文代(寺田) 3
 大16日 野見山百葉(末松) 3
 大16日 河口奈緒美(西村) 3
 大16日 植月美美(山下) 9
 大16日 小川滋子(山本) 3
 大16日 土河美枝子(吉本)10
 大17英 牧角美和(肥山) 3
 大18語 江後紀久子 3
 大18語 河野行子(藤田) 3
 大19日 小川知華(鳥袋) 3
 大19日 荒木倫子(三村) 3
 大19語 島中由紀(伊藤) 3
 大19語 原田祥子 3
 大20語 福島まどか(千葉) 3
 大21英 岡本智子(倉田) 1
 大21語 高垣尚子 6
 大22日 植田さつき 3
 大22日 田中純子(松田) 3
 大24日 柴田道子(宮島) 3
 大25日 永野実芳 3
 大25英 中尾香代子 3
 大26日 塩川佳恵(松永) 9
 大26英 宇都宮英里子(坂本) 3
 大26語 渡辺 薫 3
 大27日 田中 江美 3
 大28日 岩本 紫 3
 大28英 植田万里子(松本) 3
 大30英 奥 靖子(浜本) 3
 大36日 匿名希望 9
 大36英 後根寧子 3
 大39英 岡田奈緒 3
 大40日 梅田順子 3
 大40英 石田真美 3
 大41日 山田春香 3
 院前日2 澤田雅子(北村) 3
 院前日2 藤原敦子(三浦) 6
 院前日3 林田千恵子(蔦) 3
 院前英3 来見田恵子 3
 院前日5 大塚順子(木下) 3
 院前日10 澤山淑子 3
 院前日10 西原圭子(堤) 3
 院前日15 久保智栄子(今井) 3
 院前日16 兵庫仁美 3
 院前日21 柳原暁子(林) 3
 院前日27 川藤良子 3
 院前日28 川野真帆 3
 院後日8 川口 香(那須) 6
 会友 深谷邦子(玉置) 3
 会友 遠藤邦子(浜田) 3
 会友 竹廣道子 3
 高12回 有志7名(1月26日) 7
 有志 須永 誠(11月26日)10

旧職	12
梅光	27
中学	4
高校	212
短大	68
大学	68
大学院	13
会友	3
有志	2
計	409

短日8 宮崎悦子(渡辺) 3
 短英9 林 加代子 3
 短英10 藤本淑子(桐原) 3
 短英11 中島恵美(高尾) 3
 短英11 深堀尚子(平野) 3
 短英11 鐘ヶ江悦子(山本) 3
 短英12 上田秀子(井関) 3
 短日12 五輪喜久子 3
 短日12 大塚悦子(大塚) 3
 短日13 田中恵美子(田中) 3
 短日15 坂口京子(磯部) 3
 短英16 平岡照未(伊東) 3
 短英16 仮屋浩子 3
 短英16 三木順子(徳久) 3
 短日16 平塚光江(澤田) 3
 短日16 樽本久美(藤原) 3
 短英17 白石みゆき(児倉) 3
 短英18 渡辺朋子 3
 短英20 井上悦子 3
 短英20 右田 綾(船津) 3
 短日20 馬田千夏(池上) 3
 短日22 鈴木直美(河崎) 3
 短日23 和田裕子(藤井) 3
 短英24 鶴田友里絵 3
 短日24 三ツ川由香(元田) 3
 短日26 井上恭子 3
 短日26 高橋直子(三原)13
 短英28 佐々木理子(石川) 3
 短英29 小野佳子(江藤) 3
 短日29 伊藤麻里(菅) 3
 短日29 野中美和 3
 短日30 濱崎典子(明知) 3
 短日30 野中佳代子(今井) 3
 短日35 宮村公子 3
 短コ2日 中村容子 3
 短コ3日 木原豊美 3
 短コ3日 高取萬智子 3
 短コ4日 大澤宣子(高橋) 3
 大1英 宝辺静子(久保) 3
 大1英 饗場英子(近藤) 3
 大1英 長崎真由美(森) 3
 大2英 石田邦子(神西) 6
 大2英 向野泰子(田島) 3
 大4日 志保みはる 3
 大4英 御厨ひろみ(長谷川) 3
 大4英 大寺和美(前田)10
 大5英 常盤恵子(木下) 3
 大5英 三桥英子(十時) 3
 大6日 平川典子(神峯) 3
 大6日 林 由紀(寺本) 3
 大7日 酒井雅子(酒井) 3
 大7英 香月順子 36
 大7英 大坪桂子(金子) 4
 大7英 磯谷由美(林) 10
 大7英 渡辺淳子(藤本) 3
 大7英 溝部貴子(和藤) 3
 大日8 中道順子(衛藤) 3
 大日8 本保治代(下瀬) 3
 大英8 大本美智子(江崎) 3
 大日9 富田栄子(國米) 9
 大英9 亀井由美子(磯部) 3
 大10日 江藤京子(伊藤) 6
 大11英 龍崎美香(龍崎) 3
 大12日 山縣麻里 3
 大12英 河合津奈恵(河合) 3
 大12英 藤岡利恵(田村) 3
 大13日 三浦美香子(武石) 3
 大13日 宮田史子(原) 3
 大13英 滝本あい子(滝本)3(小田部) 3
 大14日 諫山貴子(青柳) 3

高24 吉本圭子(唯岡) 3
 高25 日野原静子(楠) 3
 高25 戸沢幸子(戸沢) 3
 高25 吉田真子(藤田) 3
 高26 砂田みどり(佐竹) 3
 高26 戸沢芳子(福本) 3
 高27 大池 恵(白井) 3
 高27 島村善子(中西) 6
 高27 横田のぞみ(山中) 3
 高27音 村山紀子(小木) 3
 高28 波多江登喜子(林) 9
 高29 佐藤久美(林) 3
 高29 宮本まり子(山本) 3
 高30 川崎晴美(上田) 3
 高30 部坂総子(高橋)12
 高33 山本美枝(福田) 3
 高33 長谷川奈津江(盧)10
 高33音 橋本亮子(木原) 3
 高34 石原陽子(本田) 5
 高34 鈴木理恵(増山) 3
 高35 川崎宏子 6
 高35 小島 弓(吉岡) 3
 高35音 相良佐輝子(有吉) 3
 高36音 吉積明代(野村) 3
 高37 沼崎素子(田中) 3
 高38 津田里美(来島) 3
 高38 稲岡昭子(黒瀬) 3
 高40 山中弘子(安部) 3
 高42 吉田留津子(石田) 3
 高42音 許 伯恵(許) 6
 高43 植田みどり(梶間) 6
 高47英 東屋悠子 3
 高51 小川麻紀子 3
 高56 飯塚ゆかり(上田) 3
 高57 松本由希 3
 高57音 高橋絵里(中野) 3
 高58音 部坂有香 6
 高60音 荒木めぐみ 3
 高62 江藤さゆり 3
 高66音 芳賀亜沙香 3
 短英1 宮佐充子(赤川) 3
 短英1 野村佐登美(郷) 6
 短英1 阪本和子 6
 短英1 梶井初子(白井) 3
 短英1 高橋みどり(力丸) 3
 短日1 藤井久美子(木川) 3
 短英2 小原政子 3
 短日2 伊藤幸恵(武波) 3
 短日2 畠中節子(中島) 3
 短英3 津田千鶴子(植田) 3
 短英3 藤津泰子 3
 短英3 松永房江(藤永) 3
 短英4 大野美加子(益森) 3
 短日4 西村佳代(川村) 3
 短英5 河崎百合子(坂本) 3
 短英5 草田和枝(張草田)12
 短日5 大西恵子 3
 短日5 吉賀八千代 3
 短英6 弘中和子(末田) 3
 短英6 宮川悦子(千々和) 3
 短日6 福永芳枝 3
 短日6 関 安津子(益森)9
 短英7 梶原淑枝(稲井) 3
 短英8 上田真弓(足立) 3
 短英8 川端佳子(梅田) 3
 短英8 宮本隆子(児玉) 3
 短英8 浜 祐子(瀬戸崎) 3
 短日8 又賀美鈴(大江) 3
 短日8 榑崎美佐子(松本) 6
 短日8 幡吉真弓(森川) 3

高6 阿美谷トメ子(斎藤) 3
 高6 木野治子(酒井) 3
 高6 中山光世(高橋) 3
 高6 北 和子(竹之内) 3
 高6 大和明美(中尾) 3
 高6 奥田美沙子(久野) 3
 高6 垣見百合(榎田) 3
 高6 松田志ずへ(村田) 9
 高6 石井径子(森) 9
 高7 中川照子(石橋) 3
 高7 今津敏子 5
 高7 梶間眞壽美(大迫)30
 高7 中野由己子(高橋) 3
 高7 曾田邦子(馬場) 3
 高7 中村由紀子(松本) 9
 高7 碓崎珠江(三原) 3
 高7 行村君子(村岡) 3
 高7 清水玲子(山崎) 3
 高8 尾木国子(大西) 3
 高8 松本節子(鳥居) 3
 高8 中園桂子(中本) 3
 高8 福井美貴 3
 高8 柿原裕子(南) 3
 高8 吉田梨子 3
 高8 中島節子(吉田)10
 高8 力丸徳子(力丸)10
 高9 小園美智子(池田) 3
 高9 桑原勝江(植田) 9
 高9 桑原京子(大村) 3
 高9 宮元恒子(勝本) 3
 高9 藤岡都美子(河田) 3
 高9 安藤清子(菊谷) 3
 高9 太田淑子(熊野) 3
 高9 日置恵子(高橋) 3
 高9 田村千世子(田中) 3
 高9 松岡郁子(田原) 3
 高9 砂山千代子(筒井)3
 高9 池田淑子(富永) 3
 高9 谷 禎子(西村) 3
 高9 原田早智子(原田) 6
 高9 小倉ミチ子(原田) 3
 高9 細川公子(日野) 3
 高9 横山佑治子(藤本) 3
 高9 和田加代(宮内) 3
 高9 和田克子(宮原) 3
 高9 太田滋枝(横山) 3
 高10 鶴野恵子(石田) 3
 高10 伊田美智子 3
 高10 市河純恵 3
 高10 藤本明子(市田) 3
 高10 田仲孝子(井上) 9
 高10 児玉安子(公家) 3
 高10 松本さち子(小島) 3
 高10 浅井悦子(高井) 3
 高10 長谷川久子(田中)15
 高10 島谷幸子(豊田) 3
 高10 中川泰子(中川) 3
 高10 三好久美代(中野) 6
 高10 森 紀美(中村) 3
 高10 神原満子(波多野) 3
 高10 浜谷静枝 30
 高10 津田敬子(宮崎) 3
 高10 倉重怜子(村田) 3
 高10 安河内敬子(村中) 3
 高10 泉 幸子(山崎) 3
 高10 三原信恵(山本) 3
 高11 是石昌代(上園) 3
 高11 森田朋子(岡崎) 3
 高11 重田君代(金ヶ江) 3
 高11 里 光枝(里) 3



学院だより

学院人事

2016年(平成28年)4月1日付

○ 学院長 中野 新治 再任

○ 大学長 樋口 紀子 再任

○ 中学校・高等学校長 近藤 泰雄 再任

○ 幼稚園長 李 光赫 再任

1. 退職 再雇用者を除く

《ティーチングスタッフ(教員)》

2016年(平成28年)3月31日付

大学 文学部 教授 松尾 文子

大学 文学部 特任准教授 矢本 浩司

大学 文学部 准教授 湯浅 直美

大学 文学部 講師 金井 典子

大学 国際言語文化学部 教授 遠藤由里子

大学 国際言語文化学部 特任教授 友永 次郎

中学校・高等学校 教諭(国語) 米谷 悦子

中学校・高等学校 教諭(国語) 佐藤 春美

中学校・高等学校 教諭(国語) 西嶋弥栄子

中学校・高等学校 教諭(英語) 岩男 晶子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

中学校・高等学校 教諭(英語) 佐野 明子

教諭(英語) 鳥飼 康彦

中学校・高等学校 教諭(社会) 梶原 康久

中学校・高等学校 教諭(体育) 浅井 浩史

中学校・高等学校 教諭(体育) 大井 昌代

中学校・高等学校 教諭(宗教) 下川 義明

中学校・高等学校 教諭(英語) 小野亜希子

中学校・高等学校 教諭(理科) 藤井 一正

中学校・高等学校 常勤講師(英語) 住田 幸正

中学校・高等学校 常勤講師(数学) 宮田 和昭

幼稚園 教諭 徳川 桃子

《マネジメントスタッフ(職員)》

2016年(平成28年)1月31日付

大学 学生支援センター 堀川 徹二

2016年(平成28年)3月31日付

大学 総務部 豊田 滋

大学 総務部 上田 一夫

大学 総務部 柴田 常雄

大学 キャリア支援センター 中川 聡子

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

大学 キャリア支援センター 福永 美佳

2. 新任

《ティーチングスタッフ(教員)》

2016年(平成28年)4月1日付

大学 文学部 特任准教授 吉光 紀行

大学 文学部 特任講師 東 宮史

大学 文学部 教授 松永 龍児

大学 文学部 准教授 久保田眞吾

大学 文学部 講師 池田 静香

大学 文学部 講師 渡邊 晶子

大学 文学部 講師 チャールズポーク

大学 子ども学部 特任教授 松永 章

大学 子ども学部 准教授 山本 一誠

大学 高等教育開発研究所 特任教授 塩川 雅美

大学 高等教育開発研究所 客員教授 各務 正

中学校・高等学校 教諭 中川 勝彦

中学校・高等学校 助教諭 ロビン リード

中学校・高等学校 常勤講師 池田 智幸

中学校・高等学校 常勤講師 神谷 健

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 森田 裕介

中学校・高等学校 常勤講師 佐藤 潤哉

《マネジメントスタッフ(職員)》

2016年(平成28年)2月1日付

統轄本部 人事室 秘書室・I R室 廣田 薫

2016年(平成28年)4月1日付

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

大学 学生支援センター マネ

キャンパスだより

大学

大学・学生支援センター長 藤原義嗣

全国大学生生活協同組合連合会では、毎年秋に加盟する全国の国公立および私立の大学の学部学生を対象に「学生生活実態調査」(以下、「学調」)を実施しており、本学の大学生協もこれに参加し、調査結果を大学に提供して下さっています。学生支援センターをはじめ各部署において、本学の教育内容を映し出す客観的なデータとしてこれを活用させていただいています。

また昨年度の「学調」の全国結果は、朝日新聞出版が発行した「大学ランキング2016」の「学生生活」に関する部門のランキング指標として掲載されていますが、本稿では同窓生の皆様に、この「大学ランキング」を通じて本学学生の現在のキャンパスライフを垣間見ていただきたいと思います。
※学生生活が充実：1位…お茶の水女子大(97.0%)、2位…梅光学院大(96.6%)、3位…帯広畜産大(95.2%)、4位…滋賀大・大津地区(93.4%)、5位…滋賀



医科大／東京外国語大／京都府立医科大(93.1%)

※入学後の留学経験がある：1位・梅光学院大(34.5%)、2位・立命館アジア太平洋大(28.0%)、3位・東京外国語大(27.6%)、4位・桜美林大(26.0%)、5位・大阪大(15.3%)

※現在、サークルに加入：1位・梅光学院大(89.7%)、2位・芝浦工業大(88.5%)、3位・滋賀大・大津地区(87.8%)、4位・帯広畜産大／下関市立大(86.5%)、5位・慶応義塾大(82.1%)

※相談相手がいる：1位・茨城キリスト教大(96%)、2位・滋賀大・大津地区(94%)、3位・梅光学院大(93.1%)、4位・大阪教育大(91.6%)、5位・京都橘大(90.9%)

※勉強時間合計(1日)：1位・東京薬科大(462分)、2位・梅光学院大(393.8分)、3位・星薬科大(378.3分)、4位・滋賀医科大(376分)、5位・京都府立医科大(362.6分)

※読書時間(1日)：1位・立命館アジア太平洋大(65.3%)、2位・東京大(51.2%)、3位・札幌学院大(45.7%)、4位・梅光学院大(44.5%)、5位・京都大(40.6%)

※スマホ利用時間(1日)：1位・淑徳大・みずほ台地区(273.0分)、2位・阪南大(239.4分)、3位・

甲南女子大(234.1分)、4位・茨城キリスト教大(233.4分)、5位・梅光学院大(231.4分)

キャンパスライフに関する様々な項目で、本学が全国の名立たる大学と共に上位にランクインしていることがお分かりかと思えます。

本学ではこれまでも小規模大の特性を最大限活かしつつ、チューター(クラス担任)や学生支援コンシェルジュらが日常の大学生生活をサポートし、学生相談員(臨床心理士)が精神面での相談に応じ、保健スタッフ(保健師)が健康面でのケアを丁寧に行っておりました。このように教職員が協働して学生一人ひとりに寄り添うように支援活動に取り組んできたことが、充実度の高いキャンパスライフを学生らが送れるようになってきている一つの要因だと考えております。

今後も全国に誇れる満足度の高い大学生活を提供し続けることができるように、また同窓生の皆様が自慢に思っていただけの大学であり続けるために、教職員一丸となって教育環境の整備に努め、学生の学びと成長に効果的な教育プログラムを実践してまいります。

今後とも皆様の温かいご声援とご支援をよろしくお願い申し上げます。

東北インフォメーション

子ども学部3年
白坂 亜睦 謹

平成27年8月26日から28日に学生9名引率者2名で東北ボランティアとして、岩手県大船渡市を訪問しました。

訪問に際して、ご支援ありがとうございました。以下に被災地の体験や想いを報告させていただきます。

仮設住宅

子ども学部1年
恩地飛翔・井上大輔

仮設住宅は半数以上が小中学校の校庭や民有地に建てられています。私達が宿泊させていただいた仮設住宅も、大船渡中学校のグラウンドに建てられていました。そのた



め、体育の授業は常に体育館で行うなど、子供達の活動に支障が出ていました。公園もなく、グラウンドは仮設住宅で、「子供達はどこで遊ぶの?」と心配になりました。

また、私が最も驚いたことがあります。仮設住宅を利用している人の中には、電子レンジ、冷蔵庫など、無償で付いているものを全部持って帰ったという人、タイヤ置きのために利用している人、他人を寝泊まりさせている人がいます。孤独死といった、深刻な問題もあり、本当に衝撃を受けました。只でさえ不便な生活を強いられるのに、住人の精神面も不安定になり人間関係もうまくいかず、とても大変な日々を過ごしているのだと深く痛感しました。

これらの仮設住宅はもうすぐ取り壊され、別の場所に移動することです。私は住人の皆さんが不安な生活を送られている場面を目の当たりにして復興支援はまだ必要だと思いました。

実際の現場で現状を目の当たり

にし、多くの問題点について、考える経験をさせていただきました。そして4年半経った今、東北の方々に対して我々がやらなくてはならない事が何なのか考えさせられました。

東北の現状

子ども学部1年

村田帆希・菊次裕香
私たちは陸前高田市を訪れました。道の駅は、以前は、観光案内・売店などがあり、市民の憩いの場でした。東日本大震災の津波により被災しましたが、津波の恐ろしさを後世に語り継ぐため、震災遺構として保存されています。建物の中を見ても、天井から骨組みが垂れ下がり、コンクリートの壁は崩れ、下はがれきで埋め尽くされていて、津波の破壊力を感じました。

有名な奇跡の一本松も訪れました。海水の傷みによって壊死して





しまいましたが、陸前高田市はこの一本松を鎮魂、希望、復興の象徴として保存しています。

私たちは今、東北の復興は進んでいるとニュースなどで目にしますが、私たちが直に見たのは、まだまだ完全復興にはほど遠い状況でした。地元の方々は4年経った今も当時の状況を話すと涙が出てくるほど、心に大きな傷を負われていました。被災した方々の心は復興できているとは言いがたいですが、交流をしていく中で私たちが歌を歌い、話をしていく時に見せて下さる笑顔はとても素敵でした。



た。辛いことがありながらも前向きに笑顔で生きている姿に感銘を受けました。

被災者の声

文学部2年 城佳 寿美

子ども学部1年 関野明日香

交流会で、あるご高齢の方は「役所にいたら津波がきて、高台に逃げた。でも焦ってバスで逃げてしまった人は津波に流されてしまった」と涙ながらに語って下さいました。



また、ある方は「震災の日の朝、買い物をしたお店も、一緒にお茶した近所の人たちもみんな流されてしまった」「助かろうと思って屋根の上に登っていた人たちも家ごと流されていた。ずっと屋根の上で『助けて!』って叫んでるの。



私はそれをみているだけで、なにもできなかった」とおっしゃっていました。そして「布団もなにもない中で小学校の講堂の冷たい床の上で寝た。食べるものもなく、おにぎり一個のためにみんな必死だった」とおっしゃる方もいました。私たちは東北のこの現状を受け止め、さらにそのことについて、知っていかなくてはならないと思いました。

中学校・高等学校

映画「隣人のゆくえ」

音楽科長

林 久代

梅光を舞台にした映画が、また誕生しました。



前回は奥田瑛二監督の「風の外側」でした。今、日本アカデミー賞主演女優賞受賞などで話題の安藤サクラさんのなんとデビュー作品です。そして今回は、地元で活躍の映画監督柴口勲さんの作られた、梅光生による生粋の梅光映画です。

まずは監督の呼びかけに集まった生徒の中から、オリジナルテーマ曲を作曲する生徒、カメラマン、監督の指示通り走り回る助監督、特殊メイク担当、そして女優たちが揃いました。何度も集まり、監督が梅光生の生の声を聞きながら性格や特性を見ながら台本が完成され、1時間以上の作品に仕上がりました。

できれば夏休み中に完成をと計



画していましたが、作品を生み出すには思う以上に時間がかかり、監督の完成度を高めたいという気持ちも加わり、最後の撮影の頃には夏服が厳しくなっていました。同じシーンを何度も撮り直して夕暮れになり、みんなの携帯電話で女優を照らしたり、もう夏も終わりでなかなか捕まえることのできない蝶を蚊に刺されながら畑で追いかけたり、怖い話が大嫌いな女優が泣きながら梅ヶ峠の校舎で幽霊のシーンを演じたり、メイキングのエピソードが山のようにあります。保護者の皆さんも手伝ってくださいました。監督のご尽力は言うまでもありませんが、オール梅光で作った作品です。内容はホラー映画のような、戦争映画



卒業生総数	
梅ヶ崎	150
光城	80
梅光(旧制)	2,413
高・中	13,354
短大	13,996
大学・大学院	9,029
計	39,022
2016.3.31 現在	

のような、青春映画でもあるオリジナルのミュージカル映画です。歌やダンスの大好きな梅光生らしい、監督に言わせると梅光でしか作れない映画です。どこかで公開されることがあれば、ぜひご覧ください。懐かしい梅ヶ崎の校舎、丸山の記念館、講堂が舞台です。来年は、梅光が生んだ往年の女優木暮実千代さんの生誕100年だそうです。そろそろ新時代の女優が生まれるかもしれません。



2016年(平成28年)度 梅光学院在籍者数

2016年(平成28年)4月12日現在

		博士課程前期		博士課程後期			計
		1	2	1	2	3	
大 学 院 文学研究科	日本文学専攻	(6)	(6)	(2)	(2)	(2)	(18)
	英米文学専攻	0	2	2	0	2	6
	計	(6)	(6)	(2)	(2)	(2)	(18)
	計	0	2	0	0	0	2

		1	2	3	4	計(学科)	計(学部)
		(190)	(190)			(380)	
大 学	人文学部	233	170			403	(550)
	日本文学科			(85)	(85)	(170)	553
	国際言語文化学部			(57)	(36)	(93)	(234)
	子ども学部	(100)	(80)	(85)	(85)	(350)	(350)
計	(290)	(270)	(287)	(287)	(1134)		

		1	2	3	計
高等学校	普通科	(80)	(80)	(80)	(240)
	英語科	(30)	(30)	(30)	(90)
	音楽科	(20)	(20)	(20)	(60)
	計	(130)	(130)	(130)	(390)

		1	2	3	計
中 学 校		(70)	(70)	(70)	(210)
	計	50	41	63	154

		3才児	4才児	5才児	計
幼 稚 園		—	—	—	(90)
	計	28	30	32	90

※ () 内は入学定員(編入学定員数を含む)
※ 休学者を含む

総現員	(1,860) 人
	1,589 人

高等学校卒業生 進学状況

(16.3.31)

- 大学
 - 〈国立〉
 - 福岡教育大学 1
 - 〈公立〉
 - 下関市立大学 1
 - 山口県立大学 1
 - 北九州市立大学 2
 - 〈私立〉
 - 梅光学院大学 10
 - 国際基督教大学 1
 - 帝京大学 1
 - 武蔵野音楽大学 1
 - 京都外国語大学 1
 - 関西学院大学 1
 - 九州栄養福祉大学 1
 - 短期大学
 - 〈公立〉
 - 大分県立芸術文化短期大学 1
 - 〈私立〉
 - 桐朋学園芸術短期大学 1
 - 西南女学院大学短期大学部 1
 - 〈専門学校〉
 - 文化服装学院 1
 - 奈良調理短期大学 1
 - YICリハビリテーション専門学校 1
 - 下関歯科技工専門学校 1
 - 麻生公務員専門学校 1

大学卒業生 就職状況

(16.4.1)

建設

- (株)エムビーエス 1

製造

- (株)岡本鉄工 2
- 一番食品(株) 1
- (株)東洋シート 1
- 日章工業(株) 1

情報通信

- (株)メンバーズ 1
- 富士通東邦ネットワークテクノロジー(株) 1
- (株)山口情報処理サービスセンター 1
- (有)アイデジタル 1

運輸・郵便

- 日本郵便(株) 3
- (株)サカイ引越センター 1
- 琴崎産業(株) 1
- A N A 大阪空港(株) 1
- A N A 福岡空港(株) 1
- A N A ウィングス(株) 1
- サンデン交通(株) 1
- (株)韓進インターナショナルジャパン 1
- ヤマト運輸(株) 1
- (株)フジドリームエアラインズ 1

卸・小売

- (株)エディオン 2
- (株)ABCマート 1
- (株)ティアラ 1
- サキヤクリエイト(株) 1
- (株)スズキ自販山口 1
- (株)網中 1
- (株)丸久 1
- (株)ルネ 1
- (株)キャンストアオペレーション 1
- (株)太陽家具百貨店 1
- (株)松岡 1
- (株)ハローズ 1
- 福永商事(株) 1
- (株)トライアルカンパニー 1

- (株)ネクステージ 1
- 山口トヨペット(株) 1
- コストコホールセールジャパン(株) 1
- 日産プリンス山口販売(株) 1
- (株)ニトリ 1
- (株)マリークワントコスメチックス 1
- (株)インテリアセンター 1
- 山口マツダ(株) 1
- ネットトヨタ山口(株) 1
- (株)プロダクトマーケティングサービス 1
- 不二貿易(株) 1
- (株)ソラオプトウキョウ 1

不動産・物品賃貸

- (有)アイユーホーム 1
- 朝倉武住販 1

金融・保険

- 第一生命保険(株) 3
- 西中国信用金庫 2
- 楽天銀行(株) 2
- (株)山口フィナンシャルグループ 2
- (株)三井住友銀行 1
- 高知信用金庫 1
- 日本生命保険相互会社 1
- 東洋証券(株) 1

飲食・宿泊

- (株)大谷山荘 1
- (株)西村屋 1
- 国際ホテル宇部 1
- (株)ホテル旅館マネジメント 1
- 生活関連サービス
 - 一般財団法人日本ボディセラピストカレッジ 1
 - (株)ダスキン山口 1

サービス(その他)

- 光東(株) 2

- 下関農業協同組合 1
- 林兼産業(株) 1
- (株)パコラ 1
- (株)ファーストハンド 1
- スキルウェイ協同組合 1
- ディップ(株) 1

教育・学習支援

- 北九州市小学校 6
- 山口県小学校 5
- 山口県中学校(英語) 2
- 北九州市中学校(英語) 1
- 佐賀県小学校 1
- 沖縄県小学校 1
- 山口市幼稚園教諭保育士 1
- 朝倉市幼稚園教諭保育士 1
- 久留米市保育士 1
- 九州国際大学付属中学校 1
- 伝習館高校(定時制) 1
- 学校法人信望愛学園 高千帆小百合幼稚園 1
- (株)エフェクトプラン 1
- (株)国際交流友の会 F L A 学院 1

医療・福祉

- 社会福祉法人育栄会 つばさ保育園 2
- 社会福祉法人岳陽会 こもれび保育園 1
- 社会福祉法人清琴福祉会 花かご保育園 1
- 児童養護施設救世軍愛光園 1
- (社)北九州市小倉社会事業協会 1
- (一般財団法人)日本ボディセラピストカレッジ 1
- 国立病院機構中国四国グループ 1
- (株)エスマイル 1
- (株)シダー 1

公務

- 山口県警察本部 1
- 下関市役所 1
- 下関市図書館 1



梅光学院校旗贈呈式

梅光学院では、戦前には校旗がありましたが、戦争中空襲で焼失してしまいました。その後ずっと校旗がなくきましたが、この度同窓会によって、新しい梅光学院全体の校旗が贈られました。同窓会長の浜谷先生は、この校旗は「梅光学院のシンボルとして目に見える形ではありますが、生徒の皆さんはこころの中に、目に見えない梅光学院のシンボルをしっかり持って光の子らしく歩んで下さい。」と語って下さいました。

2016年2月23日

校長 近藤泰雄



北岡元常任理事のご尽力により、株式会社川島織物セルコンで制作しました。

2016年2月23日 中高の礼拝堂で、贈呈式が行われました。

来年度同窓会総会おしらせ [2017 (平成29) 年度]

日 時	2017(平成29)年5月13日(土) 受付12時30分 13時より16時30分	会 費	3000円(チケット販売)同窓会室 振替用紙でお申し込み下さい。
場 所	シーモールパレス (下関駅)	当番幹事	高40・短日24・短英25・大日英22
プログラム			卒業時お願いした幹事さんのお名前は下記の通りです。2017年度の準備をお願いしたいので、第40回幹事会を 10月7日(金)13:00 より開催します。ご都合の悪い方は同窓会事務局までご連絡下さい。
I. 総会	13:00~14:00 2017年度総会議事 ①200万円以上の寄附に関する総会承諾の件 ②同窓会各支部活動費補助の件	高40	岩本昌子・桑原佐登子・岡村昌美・島谷恵美 川口千恵・高橋美奈子・武谷雅代・濱本登世子 村野あゆみ・森本万里子
II. 卒業生による演奏会	14:00~15:00 ピアノ独奏 原田 瞳(高48・音楽科20回) 中江沙緒里(高48・音楽科20回) 弾き語り 有吉さやか(高48・音楽科20回)	短日24	大崎育美・西田井恭子・中野清子・武田まり子
III. コール梅光コーラス	15:10~15:30	短英25	北山和美・内田智子・香月恵津子・石川ゆかり 二宮裕子
IV. 懇親会	15:40~16:30	大日22	秋山和代・坂口三佳子
		大22英	塚本亜衣子
		大22語	久保和子

連絡先 梅光学院同窓会

〒750-8511 下関市向洋町1-1-1 TEL.FAX 083-227-1111
(火・金 13:00~16:00のみ在室)